

# 會 報

第 8 号

平成元年度



滋賀県老人大学校同窓會

第八号目次

一、挨拶 ..... 1  
二、支部報告 ..... 9  
三、会員からのたより ..... 20  
四、事業報告 ..... 62  
五、行事予告 ..... 67  
六、会員名簿 ..... 71  
七、付記 ..... 105  
八、あとがき ..... 108

八、あとがき

..... 108

滋賀県盲人学校 同窓会 中川 昇 三

こゝろち

輝く 庚午の新春の加詞をささげます。

憶えば、滋賀県老人大学校は昭和五十三年七月十四日、高令者人口が増大しつつある今日、高令者が社会の進展や環境の変化に順応する能力を再開発し、社会活動への参加や、余暇の利用による生きがいの上に、充実した価値ある生活を営みうるよう、高令者に学習の機会を提供し老人福祉の向上を図ることを目的に開設された。

爾来十年、躍進をつづけて、校運まさに隆昌の一途をたどり、昭和六十三年三月十一日、輝かしい晴れの開校十周年の記念式が盛大に挙行され、建学の精神が着実に精華を挙げている如実の姿が各方面から絶讃された。

わが同窓会は、昭和五十九年九月二十二日に設立総会を草津市社会福祉センターで持ち、堂々と掲げた同窓会憲章のもと

一、互に助け合って、高令化社会を生きる資質と実践力を高めること。

二、心身の健康を保持し社会活動に積極的に参加し、老人クラブ活動の支柱となること。

三、古き良きものを伝承し、新しきものを生み出して、郷土社会の発展につくすこと。

四、会員の研修と親睦をはかり、母校の発展に寄与すること。この間まさに千名に垂んとする卒業生は、県下八支部の皆にガッチリとスクラム組んで、逞しい活躍をつづけ、地域社会のよきリーダーとして、推しもおされもしない優秀な存在となっている。まことに頼もしい限りである。後に続く入学志願者も年毎にますます増加し、現在大津校に二百十四名米原校に百七十三名等定員増加の盛況である。

林秀一会報部長、岸田七次総務部長、中島庄右衛門研修部長何れも辣腕を振って、絶妙の成果をあげつつあり本会発展のたのもしい活躍である。尚内部的な効果のみならずさきに奈良県老人大学校同窓会との盛大な交歓研修会を持ったのにつづき本年は韓国ソウル老人大学校学生と滋老大学生との研修大会を持ち得て、国際交流の舞台に躍り出したこともこの上ない快挙であった。かくて内外共に栄え行く滋老大でありわが同窓会であるがこれ偏に会員齊しく一致団結の賜であり母校開校十周年記念事業に

示された会員諸君の絶大な協力も忘れがたく、米原校地に記念植樹したクロガネモチの亭々と伸びる樹姿を仰ぎ見守りたい。  
本部の予算規模も百万円の大台に上りA会費一万円(終身) B会費千円と共に収入源となつてゐるが今一つA会費の増募を促して事業の拡大を試みたいと念願する。

さて平成三年はわが同窓会創立十周年を迎えることとなり多分これと期を同じくして、われらの念願独立校舎が堂々建設されとの朗報がある。なんでも県宮文化ゾーンに包括されるとのこと。未だ詳細はわかりかねるが、待望の夢大きく幸あれと今から祈つてやまない。

この度、会誌第八号が名簿と共に体裁も新しく完成した。広報部長はじめ部員、各支部長並びに事務局の一方ならぬ苦心の賜と感謝の念を捧げる。希くはこの貴重な会誌が友好親睦の糧となるよう念ずるものである。

母校と本会の弥栄を祈りご挨拶に代えます。

この度、会誌第八号が名簿と共に体裁も新しく完成した。広報部長はじめ部員、各支部長並びに事務局の一方ならぬ苦心の賜と感謝の念を捧げる。希くはこの貴重な会誌が友好親睦の糧となるよう念ずるものである。

母校と本会の弥栄を祈りご挨拶に代えます。

滋賀県立大学同窓会十周年記念友典対員友報

対員 部員 部員 部員

## 滋賀県老人大学校開校十周年記念式典校長式辞

校長 稲葉 稔 知事

滋賀県老人大学校開校十周年記念式典を多数の関係者の皆様のご参加をえて開催するに当たり一言ご挨拶申し上げます。

本校は、高齢者の皆様に生き甲斐を持って価値ある生活を送って戴こう、そして地域のリーダーとして活躍して戴こうという目的で、昭和五十三年十月に開校した大学校でございます。

開校当時は必ずしも恵まれた学習環境でのスタートではなかったわけですが、試行錯誤のもと諸先輩方の学習に対する強い熱意に支えられ、一年生、二年生へと、また大津校と合わせて米原校の開校へと発展して参りました。定員も当初八十名から三百六十名へと五倍近く増えるなど充実して参りました。

今日を迎える事ができましたことは、誠に喜びに絶えないところでございます。これはひとえに本日お集りの来賓の皆様方や講師や運営委員の先生方そうして老人大学校同窓会、在校生各位、その他多くの関係者の皆様方のご指導ご協力の賜ものと厚く御礼申し上げる次第でございます。

さて、人口の高齢化といわれて久しくなりますが、人口の高齢化は社会のいろいろな面に大きな影響をおよぼすものと考えられます。寝たきり老人や、痴呆性老人の看護の問題、年金や雇用の問題、住宅や町づくり問題など極めて多方面にまたがっております。なかでも重要な問題は皆様のように元気な高齢者の方々の活力を社会に活かすシステムをどうつくっていくかでありま

す。

人生八十年時代を迎えた今日、高齢者全体の九割以上の方々はお元気な方々ばかりでありまして、それぞれ高齢者が長い人生経験から体得されたあふれるばかりの知恵と知識をお持ちでございます。これを埋もれさせることなく社会に活かして戴くことは高齢者の方々ご自身の生き甲斐につながるだけでなく社会全体としても望ましいことでございます。

このように考えますと、高齢者が仲間づくりや趣味やスポーツ、あるいはレクリエーションといった、いわば個人的な生き甲斐を追及するだけでなく社会に貢献するための社会活動の方法あるいは地域リーダーとしての資質を磨いて戴くことが大切になってまいります。それだけに当老人大学校は、その重要性を増してきており地域社会から大きな期待を集めていると自負しても

間違いないと思います。今、老人大学校開校十周年という節目を迎えるに当たりこのような老人大学校の社会的な使命に思いをいたし新たな気持で更に老人大学校の充実発展のために務めていく必要を痛感する次第でございます。

どうか皆様方におかれましても、地域の中で広く心いきを示して戴きますことをとくにお願いしたいと思います。

最後になりましたが、開校以来多年にわたって学生諸君を導いて戴いた講師の方々、また事務局の皆様方に心よりお礼を申し上げますとともに今後とも尚一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、本日老人大学校開校十周年記念式典を挙げるに当たり、冒頭の式辞とさせていただきます。

平成元年三月十一日

滋賀県老人大学校開校十周年記念式典終結

## 滋賀県老人大学校開校十周年記念式典祝辞

文芸学科一期生 元同窓会長 大橋 儀平

皆さんお達者で今日お寄り戴きありがとうございます。

この老人大学校開設当時、今お話下さいました武村さん、これを作るのに苦勞して戴きまして、そして事務局の方、これも慣れんことで苦勞され、私自体もご承知の通り初めてのことですので、どのへんまでやって良いかわからなかった。ところがただ一つとりえは、八十七才でこの学校へ通って、ことに、大雪で、高島や浅井郡で、公民館がつぶれるほどの大雪の降った年でした。私はここまで来られるかと思っていたところが学校へ来られ、うれしくてうれしくてたまりませんでした。

我々の時は、教育制度が、明治九年だとおもいますが、女の人はせいぜい三年か四年で大方中退してしまつた。教育はせいでもよい、ただ働いたら良いという時代でした。

それが、今日ここでお見かけのとおり九十八才です。皆さんはここまで来るのにまだまだ遠いのです。大いに勉強して下さい。勉強しても、若いものの世界に入って、相手から尋ねん事は言わん事、さかろうたらおいてもらえなくなる。年がいくとそれは絶対のがれることができないのです。

わが聳さんでも、子供でもわが身が可愛いということになると、だめです。今の子供は教育を受けておりますし、また現在貴方方も教育を受けておられますので視野を広げて日本というものは、かくあるものということ、この大学生であることを自覚して、OBになつても地域にあつてもおおいに力になつてもらいたい。

未だいいたいことがあります時間が時間を制約をうけておりますので終わりますが、この姿、九十、百に近い人間が此処へ来てくだらん話でもさせてもらえらるという世の中になつたのです。私たちの子供の時は、知事さんは天の人のようなものでした。それが今日は武村さんに会つてあの時は苦勞してもらいましたなあと話しておりました時代になりました。結構なことです。

では、皆さんのご健康をお祈りいたしまして終わります。  
有難うございました。

## 滋賀県老人大学校開校十周年記念式典会長祝辞

文芸学科二期生 中川 長 三

石の上にも三年、これは臥薪嘗胆、辛苦を意味していると思います。

十年一昔ということは、いろいろな意味があると思いますが反省と躍進をも意味していると思います。

老人大学校が昭和五十三年に、時の県の構想、今お帰りになりましたが、初代の武村校長、また委任を受けた県の老人クラブ連合会更には学校当局、尚、本日晴の感謝状をお受けになりました皆さん方の並々ならぬご苦労、ご心労の結果今日を迎えたわけであります。

学校と申しましても校舎はありません。その中で教室その他いろいろな設備、ことに老人の学生のために交通の便まではかっていた、なかんずく近江八幡市ご当局のご好意に我々学生は雨の日も風の日も、事に昭和五十六年の豪雪のときには、わたしは湖北であります、湖北から八幡校舎に通う、或いは大津に通う、どんなに苦労したか、今思ってもよく耐えてきたなと思います。かくて三年、六年、九年、十年の今日であります。この間、諸先生の慈愛ももるご指導を杖に、あるときは県当局や県議会に請願をし採択されたこと、尚先進地の稲波野の大学校を見学したときには兵庫県でこんな立派な校舎、課程も四年制、大学院まであるのに滋賀県では何んできないのだろうかと羨望の念禁じ難いものがありました。その他数え切れない数々の思い出を持っています。然し我々学生は乏しきに耐え、あらゆる困難を克服して、校歌もできました、校旗もできました、校章もできました、老人大学校同窓会のバッチもできました。いろいろな面で、思い出の数々を今考え直すときであろうと思います。十年の歳月は短いようで長、こうございます。ご承知のごとく今日は高齢化社会であります。この高齢化社会を処していくにはいろいろなことがあるうと思いますが、老人対策がその最たるものでなからうかと思えます。

どうか、我々は大学で習った事を生かし続けるということですが今日の地域社会におきましては、老人大学校の卒業生の評価が高うございます。このことは我々が自負していることでもあります。

由来、教育は時間と金がかかりますが、老人大学の教育は、或いはその効果は時間を要しません。今学習したことが明日と言わず今日から地域社会の発展につながっていくものと確信します。



聞くところによりますと、本県にはレイカディアと言う施設が試みられていると聞いておりますが老人大学校こそは、レイカディアの中核となるべき存在価値があると確信しています。どうかいろいろな事情があろうかと思いますが老人大学校の弥栄のために、この上とも県の最大のご協力なり、ご理解を戴きたいと思えます。老人大学校も十年前は、三百万円の委託費であったと聞いておりますが今では三千二百万円とのこと、おもえば十年たつて十倍、どうか皆様のご協力によって課程も四年制になり、校舎も独立校舎、さらに大学院へと発展していくことを、皆様とともに、我々の悲願として頑張りたいと思えます。在校生の数も増えました、我々の同窓会も七百五十余名の多きに達しました。

どうか、この勢いが更に発展していくことを皆さんとともに乞い願って私の所見の一端をお聞き願った次第でございます。御清聴有難うございました。

平成元年三月十一日

滋賀県老人大学校開校十周年記念九典会委員宛書

## 滋賀県老人大学校卒業式会長祝辞

壇上 誠に潜越でございますが 私中川長三は  
同窓会長の故をもちまして 祝辞をささげる光栄を有します。

第十期学生九十五名の皆さん 平成元年の御卒業おめでとう。

幼年期や、青少年時代の勉学と異なり、はげしいたつきと変伝、極りなき複雑な世相に棹さす老人大学校在学の二ケ年。誰か短かしと言う勿れ。蛍雪の功、来りて今双手にうけた学校長滋賀県知事の輝く卒業証書の重み感懐一人のものがありません。

さらに、今日のご卒業を待ちに待った地域社会、特に老人クラブ関係の皆さんの大いなる期待にお応えいただけるこの上もない力強さ。まさに秋空高く、日本晴れの今日の首途。重ねてお祝い申し上げます。

どうぞ、学校長はじめ、諸先生、学校当局の高恩に酬ゆべく大学建学の精神を胸に、同窓会憲章を旗じるしに、県下八支部に分れた八百有余の先輩、僚友としっかりスクラム組んで、地域社会の発展と老いの生き甲斐を高める英智と逞ましいたゆまぬ精進の前途に栄光あれと苦辞をつらねて御福幸と弥栄を祈り、つゝしんで萬歳を高唱して祝詞いたします。

平成元年九月二十五日

# 支部報告

## 大津支部活動状況

支部長 高野 惣平

大津支部は同窓会員一五六名となりました。当支部は会員数及び地理的条件よりして北部から南部まで八ブロックに地域を区分し、行政上の大津市全地域を当支部の管轄としている。支部組織の充実と会員相互の連絡を密にして同窓会活動を計っている。

平成元年四月八日当支部第五回定期総会において、ご推挙を賜り、不肖私が支部長の重責をお受けすることとなりました。もとより支部長を務める器ではありませんが、支部設立のための発起人の一人でもあり、当初より支部結成のため参画し主として補佐的な事務に関係したと、先輩各位のご協力により、大津支部発展に微力を捧げたいと思っております。甚だ簡単ですが紙上を借り就任のあいさつといたします。

記

(一) 大津支部役員構成について

役員	任期	所属	氏名	任期
支部長	四期	(中部第二)	下司 清	一期
副支部長	五期	(中部第三)	辻 増三	三期
〃	二期	(中部第四)	浜田 三次	五期
〃	二期	(南部第一)	中村 標雄	三期
〃	二期	(南部第一)	林 信夫	四期
〃	二期	(南部第一)	林 行雄	七期
〃	二期	(南部第一)	奥田治良吉	三期
〃	二期	(南部第一)	北川喜太郎	三期
〃	二期	(南部第一)	磯田 善通	五期
〃	二期	(南部第一)	田中 藤平	四期
〃	二期	(南部第一)	知識 シゲ	四期
〃	二期	(南部第一)	山下 石松	五期
〃	二期	(南部第一)	杉本文治郎	五期
〃	二期	(南部第一)	川島 啓一	五期
〃	二期	(南部第一)	吉田 歳末	八期
〃	二期	(南部第一)	桑田 二郎	七期
〃	二期	(南部第一)	草野 一子	六期
〃	二期	(南部第一)	斉藤 良吉	
〃	二期	(南部第一)	清水 定意	
〃	二期	(南部第一)	加藤貴美子	
〃	二期	(南部第一)	北川喜太郎	

幹事(南部第二) 西田千代子

“(瀬田) 本郷 武子

(兼) 庶務 林 信夫

(兼) 會計 石島千代子

本部へ派遣役員

中村 標雄

桑野 大

高野 惣平

(二) 大津支部同窓会員期別学科別について

期別

学科別

一期生

八名

園芸

三十六名

二期生

九名

陶芸

二十七名

三期生

十四名

文芸

五十名

四期生

十四名

生活

四十三名

五期生

十三名

福祉

二名

六期生

二十二名

計

一五八名

七期生

十六名

八期生

三十名

九期生

十五名

十期生

十七名

計 一五八名

当支部活動状況について

平成元年四月八日、大津市老人福祉センターにおいて、支部第五回定期総会開催。出席者八十名、来賓として同窓会湖南支部長林秀一氏が県老人大学校同窓会長代理としてご臨席を賜り開催した。支部長のあいさつに引続いて提案の前年度会務報告、決算報告、平成元年度事業計画案、同予算案等全議案は満場一致をもって可決承認された。本年度は支部会則第八条に基づいて役員改選年であるため、これが選出について審議の結果、選考委員会において次期役員を選出することに決定されたので五名の選考委員によって選考のうえ、前記のとおり支部長以下の全役員が承認可決されました。会議終了後は懇親会に移り終始和やかに盛会裡に終わった。

平成元年五月十六日、支部親善ゲートボール大会を大津市中の庄児童公園グラウンドにて開催した。出席者四十名、二コートにて予選はリーグ戦各コート上位二チームを選出し決勝はトーナメント戦により優勝より四位までを決定した。本年度の優勝チームは中部第三ブロックで、さすが老大同窓会員らしいマンナーとプレーにて終始なごやかに楽しく終了した。閉会后出席者全員、杉浦会館における懇親会にて更に親睦を計った。

平成元年六月八日、県老人大学校同窓会定期総会が、高島町翠湖苑において開催され当支部より十七名が出席した。当日は執行部提案の全議事は原案どおり可決承認され会議終了後、郷

土史家藤井五郎先生の「郷土の歴史について」記念講演を拝聴した。会場担当の高島支部役員各位の諸般の準備から当日のご配慮に対し感謝いたします。

平成元年十月二十日、支部秋の行事（研修会）として滋賀県立近代美術館の見学を実施した。美術館は創立五周年記念として特別企画が催され、横山大観、菱田春草等の作品展示、郷土出身女流日本画家小倉遊亀の作品、アメリカを中心とした戦後現代美術、二十世紀のヨーロッパ美術等の作品について観賞した。出席者四十九名

#### 支部役員会開催について

当支部の役員は前記八ブロックより選出された理事及び幹事をもって構成し、理事会と幹事を含む全役員会とに区別している。支部の事業計画に基く行事、同窓会本部及び老人大学校よりの指示連絡による行事等必ず事前に役員会を開催し事業遂行に万遺漏のないよう努めている。

## 甲賀支部活動状況

支部長 丸市 喜好

支部活動としては何も出来なかったが、しかし地域においては、それぞれに活動してそれぞれ成果をあげていることに感謝

します。

今地域別の会員数は信楽十二名、土山一名、甲賀八名、甲南十名、水口十二名、甲西二十七名、石部九名で合計七十九名です。

各地域ごとに約三十名くらいの会員で構成できるとその地域の活動もすばらしいだろうと考えるのです。

## 湖南支部活動状況

支部長 林 秀一

滋賀県老人大学校が開校して十年が経過し新しい時代に入った。又、同窓会が結成されて来年が満十周年を迎える。想えば支部に於いても、同窓会員一人ひとり歳を取った。老人大学校で学ぼうと思った人は、元気の良い年寄りであったが、あれから十年。年を取った筈である。なかには支部からの呼び掛けにも、答えられないので「いつも済まない」と思っているとの電話を受けたり、「ご無沙汰をお詫びします」と言った便りが届いたりします。それでも殆どの方が、老人大学校の卒業生であるとのプライドを持ち地域社会に積極的に生きておられる事は、まことに嬉しい。殊に毎年地域から、入学希望者が数多くあることも嬉しい限りである。

① 老人大学卒業生は同窓会に入って自己研修を続けよう。

しかし、卒業生の中には「二ケ年の学生生活を将来に活かして励もう」と思って居ない人がかなり増えて来ているように思える。例えばC会員が若い年齢層にもある。前に申した様に体が弱って来て迷惑をかけるからと言ってC会員になる場合は仕方がないとしても、老人大学卒業と同時に「同窓会には入会しない」と言う卒業生に至っては、二ケ年間なにを学び自分の人生にどう活かそうとしているか疑わしいと言える。学科の専門の先生！学生と襟を開いて人生を語ったり、聴いてやったりして、建学の精神を植え込んでやって下さい。陶芸科にC会員が少ないように思います。当番で登校した時、先生と話す機会が在ったからではないでしょうか。「一生の趣味を貰った」と喜んで陶芸を続けている人が多い。

② 支部独自の行事が欲しい。

業務報告を年度末に読み返して見ると、殆どが県本部行事であり、支部行事と言えば「支部総会」と年一回の「研修旅行」ぐらいである。それにさえ参加しない人が増えてきている。「面例」と言って参加に消極的になると同時に、一挙に老化が押し寄せますよ。どうしても出られぬ用事ならば仕方ありませんが、これからは積極的に参加しましょう。

支部活動の一番は支部研修旅行です。一昨年は鈴鹿山麓の「かもしか荘」へ秋の一日を楽しんできました。参加者は三

十八名ありました。その時一泊旅行の声があり、それに従い昨年は一泊旅行を実施しました。老人達の旅行ですから、徹底して精密に計画をたて案を練りました。昨年は実行委員会を三回持ちました。乗り物の乗り降りに足の弱い人がいると言うことから電車をやめて、マイクロボスに変更しました。それでも参加者は伸びず十四名に留まりました。参加者数には落胆でしたが、その他はすばらしい旅行でした。榊原温泉近くの大観音寺に参拝しましたが、金ピカの露天観音立像で広い境内には十二支の護本尊や仏教の布教を表す立体模型があり、飽かず永く参拝しました。その夜の宿泊は「河鹿荘」で夕食には懇親会を開きました。料金は安かったが、御馳走は沢山在り、皆大満足でした。二次回は宿のカラオケ大会に参加し名古屋市の六人婦人と仲良しになり、この婦人達は、翌日の我々の松坂城見学につれていってくれと、バスに乗り込んでこられました。

翌八月二十九日は日差しは暑かったが、青葉若葉に吹かれ気持ちの良いドライブと史跡見学を続けました。二日間の旅行に疲れもなく、カラオケを楽しみながら帰路につきました。

支部の活動報告に一泊二日の研修旅行の一部を申し上げますが、平成二年度も楽しい研修旅行を計画実行致しますので沢山元気で参加してください。

## 平成元年度滋老大同窓会 湖南支部役員表

役職名	期	学科	氏名	現住所	電話
支部長	5	文	林 秀一	525 草津市西渋川一丁目16-64	62-5148
副支部長	5	園	大西 憲司	524 守山市金森町 683-4	83-1425
会計理事	7	陶	伊藤 治初	525 草津市野村町 454-3	63-1041
理事	4	生	稲村 直子	525 草津市矢橋町23-36	64-2891
理事	6	園	森元喜久蔵	525 草津市東草津三丁目4-6	62-1737
理事	9	陶	藤本 龍三	525 草津市野路町 136-58	62-4732
理事	5	文	石田 義雄	524 守山市石田町 222	85-1821
理事	6	園	小林 栄	524 守山市勝部町 900	82-2288
理事	8	園	中村 利夫	520-06 滋賀郡志賀町南小松 214-1	96-1469
理事	7	生	林 愛子	520-30 栗太郡栗東町蜂屋 75	52-2835
理事	7	文	森野 三郎	520-30 栗太郡栗東町林 44	52-1014
理事	6	陶	西田 三郎	520-23 野洲郡野洲町南桜近江富士 1460-96-060	88-6277
理事	6	生	富田もとよ	520-23 野洲郡野洲町久野部 197-1	87-5078
理事	7	園	石井也尺寿	520-23 野洲郡野洲町小篠原 1128-3	87-0897
理事	7	園	辻川 信一	520-24 野洲郡中主町六条 331	83-2054
監事	3	陶	嶋 鉄男	525 草津市野村町 454-1	62-0385
監事	2	陶	永田 義一	520-23 野洲郡野洲町野洲 119	87-1747
顧問	3	文	伊藤 博祐	525 草津市野村町 831-19	64-6881

## 滋賀県老人大学校同窓会湖南支部平成元年度 業務報告

月日	項目	摘要
平成元年 5月26日	平成元年度湖南支部総会	場所 草津市草津二丁目 割烹「くろだ」当日会費 3,000円、会員 108 名中出席者23名、委任状提出者 99 名
5月23日	老大十周年記念 同窓会記念募金決算報告	収入 630,800 (湖南支部 127,800) 支出 扇子 482,800 植樹 33,000 他 計 615,400
5月23日	米原 文化産業交流会館 記念植樹	「くろがねもち」植樹
6月8日	滋老大同窓会平成元年度 本部総会	場所 高島郡高島「翠湖園」湖南支部の参加者16名 当日会費 2,000 円
6月5日	支部研修旅行実行委員会	旅行計画
7月6日	支部研修旅行実行委員会	資料持ち寄り 計画検討
8月4日	支部研修旅行実行委員会	最終案決定 出席者概数把握
7月1日 2日	老大同窓会本部 比叡山 平成元年度 研修旅行	一泊二日 湖南支部 1 名参加
8月1日 4日	老人大学校生作品展示会 滋賀会館・教育会館	見学参加者多数
8月3日	滋老大同窓会 本部役員会	会報等印刷発行について、本年度は会報及び会員名簿を 合本とする 細部は編集委員会に一任
8月28日 29日	湖南支部一泊二日 研修旅行(榊原温泉)	マイクロバス利用 参加者14名、会費 11,000 円 見学大 観音寺・松坂城と本居宣長の史跡 河鹿荘にて懇親会
11月25日	老大公開講座 (草津市民会館)	「講話」 学校長 稲葉 稔 滋賀県知事 「世界の中の日本」 矢野暢教授京大東南アジア研究センター)
平成2年 3月3日	老大公開講座 (滋賀会館)	「親鸞の思想」 梅原猛 (国際日本文化研究センター所長) 「宇宙のロマンと人類の未来」 小田稔 (理化学研究所理事長)

## 近江八幡支部活動状況

支部長 吉川 保三郎

1. 平成元年四月八日近江八幡支部定期総会開催 出席者五四名、来賓として遠路早朝より中川会長を始め、市福祉事務所長、市老ク連、南会長の臨席を頂く。

一、議事日程に従い役員改選の結果、次の諸氏が就任、任期は二年間

支部長	吉川 保三郎	三期生
副支部長	中島 正七	七期生
副支部長	宇野 よしゑ	二期生
庶務	中谷 清司	七期生
会計	岡田 富治郎	八期生
婦人部長	牧田 登茂	八期生
監事	岡田 英多良	四期生
県老理事	中嶋 庄右エ門	三期生
県老理事	吉川 保三郎	三期生

引続き事業報告、会計決算報告、続いて会計の監査報告、提案通り可決。続いて平成元年度の事業計画並びに予算について審議の結果何れも原案通り可決、決定。

2. 四月十七日 新旧役員の引継ぎを行う。
3. 五月十九日 八幡公民館に於て、役員会と学区幹事の合同

会議を行ない、主として本年度の事業計画と実施の方法ほかに、県役員会の報告、①片岡先生退任と堀野先生の就任の件

②県老大同窓会の定期総会の件外一般公開講座の件等

4. 六月八日 県老大同窓会定期総会が高島町翠湖園にて開催 八幡支部より二〇名参加。

5. 六月十七日 県立文化産業会館において、県老大一般公開講座、八幡支部より三〇名参加。

6. 六月二十六日 八幡支部会報八号の編集委員会、八幡公民館にて

7. 七月一日二日 一泊二日老大同窓会研修会 会場は坂本町 比叡山延暦寺会館。支部より十三名出席

8. 七月二十四日 八幡公民館中ホールにおいて、支部婦人部委員会開催 ①支部婦人部の現況及び各科クラス会の状況。支部婦人部の今後の方向づけとその他

9. 八月二十九日 役員会と学区幹事会。八幡支部会報の配布 について(二百部印刷)

10. 十月十二日 第四回親善ゲートボール大会実施。土山町かもしか荘において。参加者三十六名内男子二十五名、婦人部

十一名。

11. 十一月八日 婦人部活動として第二回ふるさと探訪。参加者四十六名内婦人部二十二名、男子二十四名。目的地①美濃

一の宮南宮大社。②二十二体の国宝と舍利仏安置の横蔵寺。



③谷汲山華嚴寺。④お千代保稲荷寺参詣。

12. 十一月二十五日 老犬一般公開講座、草津市民館大ホールにて

講師 稲葉稔県知事

講師 京大東南アジア研究センター 矢野暢教授

13. 十一月二十四日 陶芸科二期生、木川文雄氏死亡、冥福を祈り弔意を表す。

14. 今後に残されている事業は役員会と支部が行う講演会等である。

15. こうした会報を通じ、同窓会員の交流の輪を広げ、太陽の光を全身に受けて大自然の恵の中で健やかに生きて行ける、知恵を五感に握りしめて、後世に繋ないで行くものを残したい。

## 湖東支部活動状況

支部長 塚本 源太郎

湖東支部も発足以来早や六年目を迎え、会員数も当初は四名であったが現在では八八名となり、会員相互の親睦を図り教養を高め、地域社会のリーダーとして貢献するよう努力している。

### 活動状況

(一) 定期総会 昨年五月一八日五個荘町福祉センターに於て、第六回定期総会を開催し来賓として同窓会本部より中川会長を始め地元からは、町長代理、住民課長、福祉センター所長、町老人クラブ連合会長など各位のご臨席を忝なうし、ご鄭重なるご祝辞を賜り恐縮に存じた次第である。この総会に於ては六三年度の事業報告や会計決算報告並に平成元年度の事業計画、予算案などについて審議され承認を得た。総会終了後出席者全員町福祉バスで、五個荘町歴史民族資料館を見学する行事をなしその後懇親会に移り、会員相互の親睦を一層深めることができた。

### (二) 役員会

年間計画としては、三、四回を予定し、必要に応じて随時開催することになっている。

六月二二日 第一回役員会 午前九時より八日市市県立老人福祉センター延命荘で開催。主なる議題としては、五月一八日に開催した第六回定期総会の会計収支計算書並に平成元年度の会費納入状況について報告し、県同窓会研修会（平成元年七月一日より一泊二日）場所大津市坂本町比叡山延暦寺会館での開催について説明し、参加者募集を依頼した。（支部割当人員一五名）

十月一七日 第二回役員会 午前九時より八日市市県立老人

福祉センター延命荘で開催。主なる議題としては、湖東支部第四回ゲートボール大会の開催について日時、場所、出場チームの編成、競技方法などについて協議した。尚その他の件として、第十期生の支部入会についてその名簿、支部規約、支部役員名簿、会員名簿等を渡し入会費一〇〇〇円を各班長さんで集めてもらうことを依頼した。また同窓会報（第八集）の発行について、基本方針や編集計画などについて説明し、会員の寄稿を依頼した。

三月下旬 第三回役員会を開催し、年度末会計決算、その他次年度の事業計画、予算案について検討審議を行い、第七回定期総会の持ち方等を協議する予定である。

(三) 支部主催第四回親善ゲートボール大会開催。十一月二日八日市役所東広場で午前九時より六チームが参加（八日市、日野、竜王、永源寺、五個荘、能登川）トーナメント方式により二コートで熱戦を展開、試合の結果、優勝能登川町チーム、準優勝永源寺町チーム、第三位五個荘町チームがそれぞれ栄冠を獲得した。

以上が平成元年度の湖東支部の活動状況であるが、この外役員会に於ては会員の作品展示会や研修旅行等の行事計画を提案されるのであるが、実施に当っては会員数の少ないことや経費の問題で中止のやむなきに到ることが多いのである。これ等の事業は同窓会で県下三ブロック別に合同で開催を計画実施する

ようにしてはと考えている。県同窓会の総務が計画される研究会等も日程等の都合で参加者が少なく、その経費の一部を参加者の頭割に負担せなければならぬことは遺憾のきわみである。

## 彦根愛犬支部活動状況

支部長 野中 正

滋老大支部同窓会発足以来七ヶ年を迎える事に相成り今回更に第十期卒業生を迎え益々組織の拡充と支部会員相互の親睦と友愛を図り地域社会のリーダーとなる様念願致しております。

支部総会行事も定義ながら諸報告から始まり決算報告、会則の一部改正、その他の議案の審議もスムーズに承認して戴き平成元年度の総会も終了致しました。

ご来賓として中川同窓会会長のご臨席をわずらわし鄭重なる祝辞を賜り恐縮に存じました。

会員数も現在では七十五名の多数になり皆様方もご承知の通り私共の地域は愛知郡、犬上郡、彦根市と湖東中部に位置し会員の方々もそれぞれに転住して居られる関係上今少し連携方法も充分でなく困却致す時もあります。

会員の皆様も地域の担い手として社会活動にも参加され更にご多忙の中、多種に渡り地域発展の為にもご努力をして居ら

れる事と心強く思います。更に同窓会の発展にもご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

尚平成二年度は米原分校の卒業生が多く入会されるものと思われ一段と会員の皆様にも更にご協力をお願いする事となります。そのためにも平常より健康には特に注意して頂き度存じます。過日も有る先生が

「健康は毎日が笑顔で過せる条件を整えること」とのことです。健康に暮せる様願っております。

支部の活動状況報告等については老大同窓会総会、支部総会、同窓会研修旅行、公開講座等は出来得る限り連絡も致しております。今後共多数のご参加をお願い致します。

支部会報も発行する予定です。支部総会も次年度より各地域交代にて場所を変えお互の交流を図る目的にて実施致したいと存じます。

支部だよりとしては充分ではありませんが今後充分に検討しご期待に添える様努めたく、お互に健康で楽しく語り合い倅せな毎日を過し、同窓会益々の発展とお互の友情を深め度く存じます。

#### 平成元年度会員物故者

故第二期生 文芸科 寺村 彦兵衛氏  
故第七期生 園芸科 西山 正三氏  
故第九期生 陶芸科 山脇 信子氏

#### 平成二年度会員物故者

故第二期生 文芸科 山本 喜一郎氏  
謹しんで御冥福をお祈り致します。

### 高島支部活動状況

#### 一 高島のみなさんへ

一 支部長 駒井 徳左エ門

はじめに

滋賀県老人大学校は、昭和五十三年十月に開校しました。

五十五年に一期生が卒業しましてから十年、毎年百名くらいの卒業生ですので、約千名近い同窓生がいます。

高島郡は、人口も県の二十分の一くらいですので、同窓生もそれに見合う、四十三名ですが、二人死亡して、四十一名です。

町村別に、多い順から、高島町十四人、安曇川町十人、今津町九人、新旭町六人、朽木村一人、マキノ町一人です。

高島支部ができたのは、昭和六十年の六月で、支部長は、高島町の井口章夫氏（二園）でした。あくる六十一年の六月の総会で、支部長には、安曇川町の、岸田七次氏（二文）、幹事に、新旭町の、森三郎氏（四文）が選出されました。

六十四年（平成元年）の六月八日に、高島町の翠湖園で総会

を開き、支部長に、安曇川町の駒井徳左エ門（七陶）、幹事に、安曇川町の、熊谷正三氏（九文）が選出されました。その時に支部長、幹事は、各町毎の廻り持ちにしたらという意見が出されました。

さて、このたび会誌発行には、高島支部の会員寄稿は、原稿十枚という割当てがありました。熊谷幹事と相談しまして、一人一枚（三百字）で、十人の人に書いてもらうことにしました。十人の割当について、各町一人づつと、同窓生の多い、高島安曇川、新旭、今津は二人にしようと決めました。

マキノ町から辞退の申出があり、今津町の藪内さんは夫婦で一枚、高島町の万木さんと、林さんは御近所で、共に、七生でしたので二人で一枚ということで、余分の出たのを、安曇川で処理したような次第です。

#### 高島の秋

原稿をたのみに、秋天快晴の日に郡内を巡り、あらためて、高島とは、こんなに美しい山や野の里であったと、うれしくなり、たのしんでまいりました。

オランダに遊ぶような、風車が秋の風に音を立て、湖には水鳥もたくさんシベリヤから来ていましたが、白鳥の姿はありませんでしたけれど、十二月に入ると、来てくれることでしょうか。この新旭町では、森さんと、遠藤さんをお願いしました。

今津町の中島さんの所は、湖岸に芒が波うって、伊吹山と、

竹生島が手にとるようです。藪内さん夫婦の里は、一面の柿畑で、鈴なりの実に、秋の陽が輝いていました。

田水さんを訪ねて、マキノ町へ行きました。そこは若狭に近いところでした。在原業平の墓のある、在原の村は、かやぶきの家々が美しくならんでいました。

鉄筋コンクリートの立派な学校にはプールもありましたが、児童数は五人でした。田水さんの家の近くに、常栄寺という立派なお寺があり、その山門は郡内では見ることのできない、壮大なものでした。

スキー場で弁当にしました。江若国境の、野坂山系の山々の紅葉の美しさは、忘れられません。

宮川さんを訪ねて、朽木村の山道へ入りました。隣りの京都府美山町にかけての、ブナの原生林を抜けると、京都市左京区久多町です。そこを通りぬけると、大津市堅田町で、安曇川の流れにそった道へ出ます。

こゝから見上げた紅葉の山は、息をのむような美しさでした。朽木村のまん中の、蛇谷ヶ峰のトンネルを抜けると、高島町です。そこに、林さんと万木さんの村がありました。初代支部長の井口さんを訪ねる予定でしたが、つるべ落しの陽は武奈の山にかくれましたので、八ッ淵の滝や、ガリバー村の方面へは行けませんでした。

私の住んでいる安曇川町は、西は朽木の蛇谷ヶ峰から、安曇



## 会員のたより

### 老 大 生

二期生 菴原 忠男

何んと、早いものである。近江八幡迄通学して居た当時を考えると、早や十年を経てしまつて居る。光陰矢の如しとは、良く言ったもので有る。

老大の支部の設立からもう五年が経ち、七十五才の人が八十才の年を迎える。自分はまだまだだと思ふのは、健康のお蔭だが肉体はそうは行かない、八十年も使いばなし、明治、大正、昭和、平成との経歴を考えると、ようまあ、生きられたものである。

老大も年々入学者の増加で本当に嬉しいことである。それだけ意欲の有ることは、健康の証しで、生き甲斐の活力の備つた御人である。願わくば社会のリーダーとして活動して頂き度いと思ひます。

私も、公園の公衆便所掃除を六年しているが、最初の間は嫌な思ひで有つたが、今日では私も未だ間に合う用事が有ると考へる様になり、命の有る限り続け度いと思つて居る。

老ク連の長は、私には余りふさわしくないが、一生懸命努力

だけは行かう覚悟であるが、これとて入院の繰返しでは当にはならないが気持だけの話。

健康保全対策としての、ゲートボールに関して、老ク連として余りふさわしくなくなつて来たと思へる様になつて来た。

耳が遠くなつた人、足の悪い人等が、出来なくなつた。之等の弱者にふさわしいゲートボールにならないかなあと、今日つくづく思う。老大卒業者のリーダーとして考へて頂き度いと思ふ。

### 歴史を尋ねて

五期生 川島 啓一

今年の秋は暖かいので、湖東方面に足を延ばす事にした。東海道線彦根駅下車して東南約2kmに行つた処に、戦国時代の武将石田三成の城跡佐和山があり、此のあたりは雑草とすすきが繁殖している。佐和山附近のすすきの穂は、他所のすすきの穂とちがつて赤く見える。なぜ? 西暦一六〇〇年九月十五日美濃国関ヶ原で、東軍十万四千人、西軍八万五千人の両軍が天下分け目の戦を展開したが、西軍の小早川秀秋が寝返り東軍に付き、西軍は破れて近江国佐和山の石田三成の城も落城し、城中の女、子供達迄も東軍によって殺害されたとのこと。その時流

した血が今に至っても、恨みとなつてすすきの穂に現われて穂が赤く見えると言つて伝説がつたわっている。

いついつまでも

恨みわすれぬ 赤すすき

その山裾野に、天寧寺があり、一般五百羅漢と言ふ此の寺は、彦根藩主、井伊直弼公の父に當る十一代直中公が、文政二年西暦千八百十九年に創建し五百羅漢を京都仏師、駒井朝運に命じて彫らしめて安置されたと言ふ。五百羅漢の並んで居るお顔はさまざまで、笑っている、睨んでいる、怒っているなど、お顔で誠におもしろい。五百羅漢の中に必ず自分が求める人の顔があると云う。亡き親、子供に合いたくば、五百羅漢の堂に籠れといった伝承も広く知られていると言ふ。又、天寧寺の中庭を廻つて見る、井伊大老が石州流庭園で禅に通じ茶道一派を開かれた井伊直弼公の好により作庭されたといわれる。此の庭園は山を背景に十六ヶ国の大名より寄進された石造十六羅漢を配置し背後に谷より湧き出る清水を池に落し、蓬萊山があるが如き作風を施した趣きは見事なものである。又、天寧寺より五〇〇m近くに龍潭寺があり、井伊氏の菩提寺で慶長五年西暦千六百年関ヶ原戦後の武功により、井伊直政公が佐和山城主となり当寺もまた、開山昊天禪師が慶長六年開創この佐和山麓に移建。元和三年諸堂が落慶したとのこと。龍潭寺は晩鐘として名高く大津の三井寺の晩鐘に次ぐものです。龍潭寺を後にして、彦根

駅に向う。皆様も一度運動がてら見学して下さい。

## 老人福祉は自助努力で

八期生 清水 定意

何時しか古希も過ぎ七十三歳となった。何時迄も元気に活躍したいと念願するのは誰しも同じ思いである。昭和六十年十月老大八期生として入校し、いろいろと教養を受け、講師諸先生から有為な話を聞き知識を深め、また二年間に得た同窓生との心のふれあいを深めたこと、年老いてこうした心からの友が出来たことは何よりの財産であったことに感謝する。私達は激動の昭和時代に生き抜いてきた。昭和天皇即位大典は昭和三年、私の小学校六年生の時であった。それ以後学校を卒業し社会に軍隊にと進み戦後は敗戦後の立ち直しの為、戦争中以上にどんな苦境も乗り越えなければ生きることが出来なかった。過去五十年を振り返り、当時やっているとときこれが苦勞と思わず唯真剣に取組みやり通してきた。今になってみればあの時随分無鉄砲に身も心も酷使してきたものだと思う。再々失敗もあったが今当時を思返せばあれが苦勞であったかと思ふにすぎない。こうして生かしてもらい現在には子供や孫も成長し、何時しか老人と呼ばれる一員となっている。

地域社会が大きく変容し、住民意識の希薄化が進行しつつある世代ではあるが、老成で得たライバル意識のない真の人間愛親交を大切に永続させたい。

老人福祉とは他人から与えて頂くことを待つのではなく自分の力、気持で切開き、自助努力により啓発してゆく可きである。

## 短歌日記

三期生 増田 三郎

私は近頃短歌日記というものを書いていく。それは毎日の出来事、或いは見た事、聞いた事、感じた事等を短歌に詠んで、それに詞書をつけて日記風に纏めたものである。

さて始めて見るとなかなか思うように短歌にならず、ともすると二日も三日もぬけて何度も投げ出そうと思ったが、そのうちだんだん考え方が変わって、とにかく素直に見たまま、そのまます歌にすればよいのだと思いついた。そう思っていると歌の題材は身近にいくらでもあるものである事に気がついた。

現在私は脳出血の後遺症で、ほとんど出歩く事もなく、視野は非常に狭くなっている。自室の窓から見える空と山と、家々の屋根が世間のすべてであるが、それでもよく見ていると歌になるものがいくらでもある。

作った短歌は稚拙なもので、到底人様にお目にかけられるようなものではないが、自分では結構楽しんで『短歌日記』を書き続けている。

私がそもそも短歌を作り初めたのは『滋賀県老人大学』の第三期生として入学を許され、『文芸学科』に籍を置いた時からである。短歌担当の伊藤雪雄先生から懇切なるご指導を受け、とに角短歌らしきものが作れるようになった。

子供の頃から短歌が好きで、古今の色々な歌人の歌を読み漁っていたが、自分で作るのはこれが初めてである。

それからもう八年余、歌らしきものが詠めるようになったのは伊藤先生のお蔭である。大学ノートに書いた短歌日記も、もう五冊になった。その中から一部最近のものを抜粋して見よう。平成元年九月十六日

今上天皇のご次男礼宮さまのお妃候補が決まった。学習院大学の一年後輩川嶋紀子さん<sup>26</sup>、学習院大学教授のお嬢さんだが、普通の家庭に育った人である。その笑顔の清々しさ、可愛らしさ、恐らく国民すべてが挙って祝福を贈るであろう。この人に、

ほほえみと厚き心に祝<sup>いわ</sup>ぎまつる若きプリンスの清らかな恋

九月十七日

何という運命の明暗の差か、日もほとんど同じ頃年頃も似通った女子大生山敷工女さんの死、その犯人は捕まったが、千年の法灯ともる比叡山の聖域に巣くっていた浮浪者の仕業であっ



たとは。御両親のお気持を思いやるとたまらなくなる。

千年の法の灯たえぬ霊域にかかる鬼畜の棲いせしとは

十月十五日

朝起きて自室の窓を開けると、秋の陽ざしが一ぱいにさし込んで来る。雲も無く風も穏やか、申し分のない秋日和である。思えば今日は故郷の氏神様の秋祭の日である。今年も豊年だったようだから、さぞ賑やかな事だろう。父母も兄も亡く、生家も空家となった今は行くすべもないがたまらなく懐しい。あのひなびた笛や太鼓が聞こえてくるようである。

秋空はほがらに晴れて陽はぬくし故郷は今日祭り日なりき

十月十七日

朝病院へ行こうと思って、車椅子を出してもらって表へ出たら、今日ほごみの回収日らしくて表に古布等が紐で縛って積んであった。ふと見るとその檻褌ほこ布の中に私が四十数年前ビルマの雨の中で着ていた雨外被があるではないか。私は一瞬眼頭が熱くなるような感動を憶えた。

兵たりし私のまといし雨外被檻褌ほことなりてごみに混れり

これから先何年生きられるか判らぬが、生きている限り私はこの歌日記を書き続けたいものだと思っている。

## 男性の宿命

七期生 林 行雄

男性の皆さんの中で、次の症状で悩んでおられましたら、「年だからだ」とあきらめないで受診されることをお勧めいたします。

- (一) 夜間に数回トイレに行くが、一回の尿量が少ない。
- (二) オシッコの最初の一滴が出にくく、残尿感がある。
- (三) 排尿が終わったと思ったのに、またタラタラと出てくる。
- (四) オシッコの出が悪く排尿に時間がかかり、きばらないとオシッコが出ない。

以上の症状のある方は前立腺肥大症の疑いがあり、泌尿器科で診察を受ける必要があります。

前立腺とは男性のみが持っている臓器で、栗の実位の大きさで膀胱の出口にあり、尿道を包みこんでおり、六〇歳代で六五%、七〇歳代で七〇%が肥大症で、男性の精液の一部がこゝで作られ、ふつう臓器は年齢をとると萎縮して小さくなりますが前立腺だけは逆に大きくなることがあり、鶏卵位に大きくなる。前立腺が尿道や膀胱の出口を圧迫して、せまくするために前記の症状がおこります。

診察は肛門から指を入れて前立腺の状態を探る(直腸内触診)特殊な椅子に座り肛門より体腔内へ潜望鏡を入れ調べる(超音

波診断)、腎臓のレントゲン検査、膀胱鏡による検査、ストツプオッチで排尿時間の計量等があります。治療法には手術と薬による方法があります。理想的には手術で肥大した部分を摘除することですが、症状が軽いうちは服薬で進行を止めることができます。手術方法にはペニスより内視鏡を入れ前立腺を見ながら削り取る方法(経尿道前立腺切除術)と腹部を切開して尿道括約筋を残し摘除する方法があります。前者は肥大大部分をチェックして電気メスで細かく削り取りますが再発の恐れがあります。

尿が滞ると尿に細菌が繁殖して膀胱炎や腎盂腎炎などの感染症を起しやすくなり、症状が進むと尿毒症を招くことがあります。前立腺肥大の人でも、膀胱がハッスルして何んとか尿を外へ出してしまいますが、オーバークワークが続くと、ついに収縮できなくなり、膀胱に尿がたまってきて尿意が強くなっても尿は一滴も出ず(尿閉)、非常につらい状態となります。

以上私の体験から同病で悩んでおられる方に早急に検診されることをお勧めいたします。

## 第一ゲート必通法(私の呪)

五期生 杉本 文治郎

平成も早や二年と成りました。…… 激動の昭和そして大正は遠くなり、今は高令化社会年々増加増加、今に若い人の負担に成る様申されて居る現実。我々高令者は如何にして日々健康で居られるかお互いに考え少しでも御迷惑にならぬ様、又元気で過ごせるかを思う事でしょう。皆さんも良く自分の身体はどの程度の運動をして居たら良いか、各人各様に色々成されて居られる事と想いますが、私の持論としては一番適当で且手近で誰もがやれるそれは何をさし置いてもゲートボールより他に絶対と申しても良い運動は御座居ません。…… 先ず自分のペースで走り、力走しなくてもよい……。そして又チームプレー(友達との連携)ルール等があり、絶えず自分なりの頭の運動……。等々良い事はかりです。だが一つそれには大きな問題に誰もが頭を痛める事が起きますのです。特に大会等に出場した場合に直面する事、それは第一ゲートを通過しなくては出来なないゲームですから……。相手チーム又味方の人達はどんな先へ進んで行かれ……。時間は刻々と迫りくる心は焦るばかり……。尚々通れない……。そこで「私の呪」が出ると良いのです……。私が其場所に居合せたら必ず通過する方法を伝授致します……。若し貴方が男でしたら女性の方に背中を三回(今度はきつと通過しますよ)と唱えてポンポンと叩いて下さい。美事通過出来ます。又反対に選手が女性でしたら男性の方がやって上げて下さい。きつと通過致します。なぜ同性同

士だったら駄目かと申しますと、なんだ偉そうに貴男が又貴女がと心に思はれるそこが問題です……。答を申し上げますと、それは其人に「暗示」を与へるわけですから、心の暗示によりゆったりした心でステックが振れるわけです。(無我の境地でやる事です)それが「必通法」なんです。必ず成功致します。万が一通らない時はまだ本人に心の動揺が有ったので……。再度やって上げなさい……。私は各大会で困って居られる方が居ると必ずやって上げます……。第三回全国大会に出場の地元チーム(ミドルレディスクラス)の監督さんが一人どうしても第一ゲート通過出来なくて半泣して居られた時、よし呪だと云ってポンポンと三回叩いて上げたら、スウと通過答は後でと云って実は何んでもないんだアレは貴女に心の動揺と焦りが有ったので……。暗示を与えただけですよ……。本当に心から喜ばれ全国大会へ出場されて行かれました。又、其他近畿大会は湖北チームに、近江八幡の女子大会にも湖西チームに又昨年の十月二三日第三回全国福祉祭ゲートボールプレー大会に優勝した水口チームの皆さんがやはりコート優勝と最後の優勝戦の時チームの女性の方に引続き呪をやって上げたら美事大優勝されました。バスに乗る前に貴男のあの呪のお蔭ですと申され喜んで帰路に着かれました。

## 北千島を守る

五期生 山本 良雄

アツ島が玉砕して間もなく私は北千島のパラムシル(幌筵島)に上陸した。樹木がなく、一面の草原地帯であった。海岸にはすぐ山がせまり、特に活火山があり、風向きによって硫黄の臭いがして戦争の殺伐さにいっそうの拍車を加えた。この山も頂き付近まで登って行く兵たちの姿が見え、それほど立ち木がなかった。硫黄山と呼んでいた。宇品の船舶司令部に挨拶に行った時、北千島の兵力は二万くらいでないかとの話であったが七千しかいなかった。各部隊が一中隊欠とか二中隊欠であったアツ島キスカ島に一部兵力を割いているのであった。キスカ島の撤退でやや兵力を旧に復した部隊もあったが、撤収部隊は本隊と隔離せよとの命令で、従来無防備であった海岸線に配置された。食糧も峠まで本隊から運び、撤収部隊が峠まで取りに来るといふ有様で「キスカ帰り」と極力差別した。私の行った頃はほぼ夏の終りであったが、兵舎が未完成で北千島の早い冬の訪れが心配であった。

狭い海峡をはさんで北にシユムシユ(占守島)があった。お碗を伏せた丘陵状の島で遠くカムチャッカ半島の連峰が見えた。この島に地下百米の穴を掘って海軍の千島根拠地があった。千根(ちこん)と呼んでいた。私は船舶固定通信隊であったので、

海軍と連絡をよくするために挨拶に行った。士官はすべて長髪で、愛想がよく、インテリ風で陸軍の将校とずいぶん違う。文学を語ったりする。煙草のチェリーを十箱くれた。当時は横浜の専売局だけが製造していた貴重品で、陸軍では手に入らなかった。それを惜し気もなく、土産にボンと十箱もくれたのに軽い嫉妬を覚えた。

ホロムシル側の台地「鷹の台」に陸軍の隼が二〇機ばかり居た。シムシム側に海軍の零戦が何十機かいたが、九月下旬平地に雪が降り始めると海軍機はさっさと北海道へ転進した。守備隊を見捨てたとわれわれ陸軍には評判がわるかったが、十月に入って間もなく暴風雪があり、陸軍の隼はプロペラーが曲ったり、翼が破れたり全滅した。海軍の方が先見の明があったわけである。陸軍が大切に地下壕にしまっていた新司偵が一機あった。時折アツツ方面を偵察に出かけた。司令部偵察機は機関銃などいっさいの火器をのせていない、丸腰である、それだけスピードが出る。追跡されても逃げ帰って来た。

開戦時日本には無かった電波探知機の急造したのが兜山の山頂にあった。挨拶にいくと見学させてくれた。画面に固定反射といつてカムチャッカの山々が三角形にいくつも映っている。その山かげにかくれて縫うようにして米国機が近づいてくるのがよくわかる。敵に機銃掃射をうけたらいちころのように思ったが、これをとりまいて高射砲隊がいたが、キスカ帰りの兵で

よく敵機を撃墜した。キスカで実戦体験が豊富だからだとみなが噂した。八月中旬空襲があったので通信所は棧橋の近くのトーチカに急遽移っていた。(つづく)

## 一年を回顧して

五期生 高野 たみ

私事で潜越ですが昨年昭和六十三年九月長男の嫁が病死致しまして、それ迄平穩無事なるわが家の急変にと迷い乍らも悲痛の連続の毎日でした。時に社会情勢も激動混迷の世相の何時果つるともなき尽六十四年となり間もなく遂に悲しみの一月七日天皇崩御翌一月八日平成元年と元号改まりいくらか公私人々の落ち着きを感じる様になり二月、三月、四月となった時図らずも四月二十九日主人の春の叙勲の恩恵を受けました次第です。右説明となりましたが因に拙歌十首程投稿させて戴きます。

### 短歌

- 一、栄光の夫の叙勲を隣席に昂り抑え徐ちに受く
- 一、激動と苦渋の昭和の御代去りて夫の叙勲に平成覚ゆ
- 一、賜りし夫の叙勲を祖の墓に謝して夕餉の買物はづむ
- 一、倅せなる嫁との生活廿余年秋深くして迫る哀愁
- 一、花のみにあらず人世の盛りにも無情の風は容赦なく吹く

- 一、求め来し即席料理に飽きし孫家で作れと亡母の味恋う
- 一、短命の妻偲びてか一周忌仏前に黙す息子の後背に
- 一、さわやかに明けゆく朝とうらはらにテレビニュースの惨事  
いたまし

一、夕づきし庭にかそけき音のして枯葉ひとひら舞い落ちゆく  
を

- 一、咲き匂う木犀今や散りそめて木の下黄金に彩りこぼす
- 一、寄り添いて何所迄ゆけるか夫と吾仰げば佗し上弦の月

## 大津支部GB大会の歩み

四期生 林 信夫

支部の年中行事の一つとして同好会GB大会の実施をS60年度の支部総会に於て決定した。其れに基いて支部の8ブロックより実行委員を選定、実行委員会に於て、第一回大会を60年6月10日に尾花川コートに於て地元老人クラブの協力を得て実施する事が出来た。従来毎年、五、六月に実施を別途として、本年平成元年5月16日に第五回大会を終える事が出来た。第一、二回は尾花川のコートで、第三回以降は会場を中の庄の旧鑑別所跡地の児童公園コートを借用し実施している。第三回大会より優勝トロフィーの寄贈もあり、参加人員も回を追う毎に増加し

て、四チームの二コート制と本格的な競技会の形になった。特に大会終了後に行う懇親会は大きな楽しみで大人気である。近くの自治会館一杯の盛会である。予算に合わせて参加賞と一、三位迄の賞品もあり回を重ねる毎に定着した。チームの編成も其の年度によりブロック対抗の時と参加者全員を抽選によるチーム編成もあった。参考迄に年次毎の優勝記録は第一回は北部ブロック、第二、三回は中部第三ブロック、第四回は小寺チーム、第五回は中部第四ブロックの優勝であった。以上が大津支部GB大会の歩みの概要であります。

追伸 近い将来県下大会でもと思考します。

## 無 題

八期生 西田 千代子

山の緑も色づく季節 日吉大社西教寺等紅葉の名所も多く日本一大きな琵琶湖が有り本場に幸い。又老大に入学させて頂き好きなお友達に恵まれ、旅行、研修、ゲートボール等いろいろとお誘いを頂き楽しく日を送ることができ喜んでおります。これからも健康に気をつけて老大的諸兄の皆様と高令社会に、お役にたつ様に思っけてゆきたいと考えて居ります。

空青く涼風少し赤とんぼ。

## 「ふるさと小佐治」編集について

七期生 橋本 清一郎

長い勤めを退いて「あっ」と言う間に十余年がすぎました。

山間避地と雖ども私にとっては掛替の無いこの地の大恵に感謝しつつ、豊かな地域文化や祖先の苦楽をも忘れることなく何等かの形で保護し記録に止めて次の世代に伝えることが出来得ればと、予ね予ね想像していたのは私一人ではなかった。又誰からの要請で発議したものでない、伝統ある村の歴史の大切さを訴え温故知新の精神を理解する媒体となるものを作ろうじゃないかと話は進んで取敢ず部落での有識者数名に呼び掛け集って貰うことゝした。寄る場所も新築の社務所が最適と宮司さんにお願して初会合をしたのが例祭に因んで昭和六十年四月十五日だった。数多い退職者の内でもこのことについて特に造詣の深い大先覚で元老（元町議会長）の河合さん、郷土の歴史に詳しい（元郷土史会支部長）今は亡き河合さん、元校長で教育要員の岩田さん、氏神の宮司で（元町議会議事務局長）の布知永さん、現町会議長の増山さんの六人で相談し二回目には分担を定めて積極的に取りくむ体制と編集委員長に河合さんをお願いし潜越ながら私も事務全般を預ることで出発することゝなった。それから約五ヶ月余りの間今後の進め方、資料の提供方、等部落組長会に出席要請（本の題字名応募）又町の小川所長を通

じ地方史実に詳しい水口高校の池内先生や水口町在住の郷土史家中西利弘氏を訪問、種々お教えを乞うことも、らず委員夫々持場毎に研究を重ねて取り進めて参りました。こんな時、県でも廿十一世紀地方の時代「ふるさと」を見直そうとの運動が起され「顔づくり事業」が提唱されたので思いは同じことその主旨に副っても見たらと意見は一致参加した。資料の作成も莫大で当事者は非常にご苦勞であった。その間、県事務所段階を初め県の現地審査を受ける等多忙の日がつゞく。反面当子ご出身で従来から地域内外に於ける数々のご寄贈行為には卒先して私財のご提供を戴いている大同塗料株式会社会長の吉治仁代次さんに厚顔乍趣旨の過程をお話し申しあげましたところ題字の揮豪もご快諾を得ると同時に過分の出版資金のご援助を賜るやら編集子一同感謝感激の内に各自で一層の励みとして戴いたのである。毎月十日を定期の委員会として出来た資料を持ち帰り回覧検討に専念する傍ら写真等の蒐集には区当局や遺族の方々の格別なるご協力に預ったこと等お礼申しあげようもない。又ご監修や挿絵には文字通りのご奉仕とご推尽を賜った池内先生、村井先生には度々現地へのご踏査を煩しご教示を戴き心から有難く存じ重ねてお礼を申し述べたものである。

県の第七回わが町を美しくコンクールに参加して以来、従来から取組んでいる各種団体も老若一体の部落愛隣人愛を醸し出し合って何事も効果のある推進が図られる運びとなった。前述

の通り県の現地審査の結果数多の部落中から栄えある「金賞」に選ばれ七月七日守山市民会館に於て地方自治施行法四十周年記念大会当日知事表彰の光栄に浴したのであった。感激のさめやらぬ八月には漸く「ふるさと」集の第一回目の校正にかゝりました。ガリ版を見たその喜びは一入で編集子一同眼頭がうるんでいた。完成を目前に控えての張り切りも一段と加って来た。委員会開催は実に四十数回、総て委員の献身的なご奉仕によるもので区当局の絶大なご支援に支え乍らの二年有余の歲月は実に速かった。途中の課程は省略するが小佐治の土地のありさまの沿革、佐治家古文書を中心としての史蹟「佐治城」のことなどを期待していた河合さんが病床に就き執筆困難となり結局委員長河合さんが総る史書を紐解き乍ら持ち前の「根性」と「趣味」を生されて目玉記事を全部ご執筆下さったことは誰彼の及ぶところではなくご当人のお人柄が今尚髣髴として甦って来るのである。

校正が終つて印刷製本に移る段階になつても印刷部数が仲々決らない（購読希望の取纏結果、部落内外等の関係あり）こともあつたが当字ご出身で京都市内で中広く活躍しておられる知人の橋本印刷に当初からお願ひして紙質、発刊部数、経費等随分とご無理を申し何回となく態々お運びを煩し、B版三百余頁で「カラー写真挿入」限定出版五〇〇部で双方共納得の上万事お任せすることに讃同を頂く十月十二日全委員出席の下、予約に

基く発送が終る。各社新聞の一斉発表を初め県の広報誌、町誌の報道となるや以外に注文が殺倒し旬日にして手持が無くなり止得ず無理を承知で追加印刷を依頼して当時をしのぐ喜びを味つたのである。その後は河合、布知永両氏が町史編纂常任委員としてご活躍下さることとなり、他に部落代表協力員として図らずも私参加させて頂くことゝなつた。その後も委員の皆さんと相寄り反省と併せて地域誌が発刊され編集に携つた一員として何等の役立ちにもならないが意見の交換会を催し互に老後を慰め合っている昨今である。

## 当り前のこと

四期生 島田 寅治郎

妻の編む毛玉ころがる辞書の傍。参志、月刊俳誌に、東京の佐野幸子女史（同志同人）がこんな平凡な私の句に評を付けて、素晴らしい夫婦愛の在り方の表現に感動いたしました。美しい光景がまなうらに映し出されます。とありました。そんな優れた夫婦ではありません。有触れた生活ですが、結婚して既に半世紀を過ぎ、年金で静かに穏やかな貧乏暮しに満足し、妻と助け合い乍ら一生懸命与えられた天寿を生きています。生活にも新鮮な潤が欲しいと去年からNHK学園で仏典を通信教育で学習

して、仏典入門。仏典の源流と目下 I N G です。此の頃は極めて当り前の事が有難いと思うようになりまし。食事すれば腹が脹む。寢床に入れば眠られる。朝に眼覚める。起きられる。立つ事歩く事座する事。目が見える耳が聞える。排尿排糞すべて当然の事です。日常の当り前の生活が出来る喜びが有難く感ずる様になりました。宗教にはキリスト教・仏教・イスラム教・その他色々有ると思いますが、難しい事はさておき、人間として極く当り前の事に感謝する事から始まるのではないでしょうか。第二次大戦後昭和二六年に行われたサンフランシスコ講和条約締結のとき、スリランカの代表が『ダンマパタ』の一句を引用して、日本に対する一切の賠償請求権を放棄し、大きな反響を呼びました。それは、怨みに報いるに怨を以てしたならば怨の息むことがない、怨みを捨て、こそ息む、という人間社会の永遠の真理だと思えます。貧しい国のスリランカが、心豊かな国民性をもち続け、未来悠久に美しい国であってほしいと、私の旅行日誌を思っています。さて、釈尊入滅の日、二本並んだサーラ樹（沙羅双樹）の間に頭を北え臨終に、もう一度諸行無常喝を悟され、禪定に入りそのまゝ安らかに涅槃に旅立たれたと聞き感慨無量でした。

いろはにはへとや平家物語でお馴染の諸行無常喝をもう一度

諸行無常 是正滅法

生滅滅已 寂滅為樂

合掌

## シンガポールの旅

九期生 山本 公治郎

二月十二日から五日間のシンガポール観光の旅を楽しんできました。大阪空港から六時間、常夏の国シンガポールに着く。日本の寒さがうそのような暑さだった。

シンガポールは国がクリーン、グリーンという美観運動を行っているため郊外は勿論、市街へ入っても緑が多く美しい街である。街中ではゴミや煙草の吸殻を捨てたり、タンヤツバを吐くと罰せられるので我々も注意しなければならなかった。

昔の古い町並がところどころ残っていたが、殆どは新しいビルやマンション、住宅に改築され、高層ビル等の建築ラッシュであった。さすが国際都市だけに世界各国の人々が観光にビジネスに出入りの激しい国であることが、ホテルのロビーでもわかった。街には日本の大企業の看板があちこちに見られ、自動車の殆どは日本産と聞く。

ガイドの説明によるとシンガポールは日本の淡路島の広さと同じで、第二次世界大戦当時は昭南島と呼ばれていたと聞き、当時の新聞で見たことを思い出す。

ジャングルを開き開通したハイウェイの両側には南国特有の花や、実のなっている木々が旅行者の目を楽しませてくれた。

観光船に乗り海に沈む夕日を眺めながらの船上パーティ、四



十階のホテル廻転展望台からシンガポールの夜景を楽しみながらの夕食会はとても素晴しかった。

チャイナタウンでは旧正月を祝った美しい飾りつけが残っておりその賑やかさが想像できるようだった。

ショッピングの都市としても有名で、世界のブランド商品を安く手に入れようとする女性の購買欲の旺盛なものには驚いた。それだけ日本も豊で幸せな国になったのだとしみじみ感じた。

こんなにも安易に外国旅行ができるよき時代に健康でいられることを喜び、これからは海外へ旅して見聞を広めたいと思う。

## 一筆御便り

七期生 千代 倉太郎

私達甲西町より県老人大学出身者の中より水口碧水荘にて二年間勉強し又OBの者が一団と成って福祉課より町長に陳情し喜しい事に昨年の五月に福祉センター横に陶芸教室を建設して戴きました。

是を機会に町内一円より土いじりの好きな老人がぞくぞくと集り只今では七拾名程会員が出来ましてABC班の三つに分かれ、私達老大陶芸教室出身の者が皆んなの面倒を見て各班月二

日づ、勉強をして居ります。

近頃では町内各行事に出品をし高評を戴いて居ります。近頃では我々教えて居た者がついて行けない程の高度な作品が出来る様に成りました。お蔭で私達老大陶芸部出身の者は町の行事又ゲートボール、又陶芸と毎日いそがしく動いて居ります。ちなみに此のつどいの名前を老人生がい教室と名付け皆んな生き生きと楽しみながらやって居ります。是が私外陶芸部の者の近況です。

## 日本人よ浮かれること勿れ

八期生 澤 忠志

今、日本人の日々の状態を観たとき国民斉しくが幸せの絶頂にある之に思えてなりません。敗戦後即ち昭和二十年代は喰はんが為に立ち復興せんが為に発奮奮励したる結果が稔りたもので世界第一の経済大国となったことは歪めない事実であるが夫々二世三世は全くの苦勞しらずの子或は孫であり将来が憂慮に堪えない家庭の姿であります。

昔から金持ち三代もたぬと云はれて居りますとおりの可愛子には旅をさせ修業をさせよと云うことを忘却されているように思はれます。

古語に「雲仍遺範」と云う言葉があります。即ち雲仍とは子孫と云うことで遺範とは何時までも続くよう子孫は先祖を大切にすることでありす。

初代の親より子孫には夫々名称があり即ち子、孫、勇孫、玄孫、までは日常接して知っているが次の六世を来孫七世を昆孫そして八世が仍孫九世が雲孫と云い子孫は初代よりの状態を知り家憲を守り抜くことにより衰へず栄へると云はれて居ります。曾っては近江商人として栄えた家柄は今猶を隆々たるはよき証拠で学ぶべきであります。

今日、日本人の大方は経済主義になって道德及倫理を意に介さない姿勢は必らず衰退すると云うことを認識してほしいと思います。

永久に繁栄する途は経済の中に道德あり道德の中に経済があることを意識すべきであると思ひます。

## 高令者自転車大会

五期生 金山 良吉

昨年九月十三日滋賀県高令者自転車競技大会郡代表選出守山室内体育館で県下十六チーム参加で第三位総合で銅賞受賞致しました。最初選出された時自転車位いと軽い気持ちで引受け内容

が発表され此か動揺不安になり自信が無く成ってくる。今更後悔しても仕方が無い。試合時間五分一週学科二〇問まるで自動車運転免許試験の様である。自動車なれば四〇年のキャリアで自信も有るが室内コース機敏な諸動作、片手で信号号コースのポイントに婦人警官の目が光って居る。油汗が出る思いである。日頃交通法規等度外視念頭に無かった不勉強を後悔しても、後悔先に立たず。さりとて郡代表なれば責任も感ずる意地でも負けられない。神に祈る思いで発表を待つ。発表の時が来た。心臓が早鐘を打ち緊張戦手誰も皆同じである。

三位土山チーム感激と満足感涙が出た。私し丈かと思つたら仲間の顔にも涙が光って居た。責任を果した満足と此の若さを明日に繋ぐ事が出来る事を願う。

## 心身の健康

一期生 丸市 喜好

五月はよい季節ですが、雨は心配です。遍路装で高松港に着きバスに乗って、まず腹ごしらえの食堂へ向う。食後はバスにて一日の安全を祈願の読経から始まるのです。遍路に行けば大師のなんらかの感得があるか、ある種の精神的充足は得られたか凡人の私にはまだわからないのです。

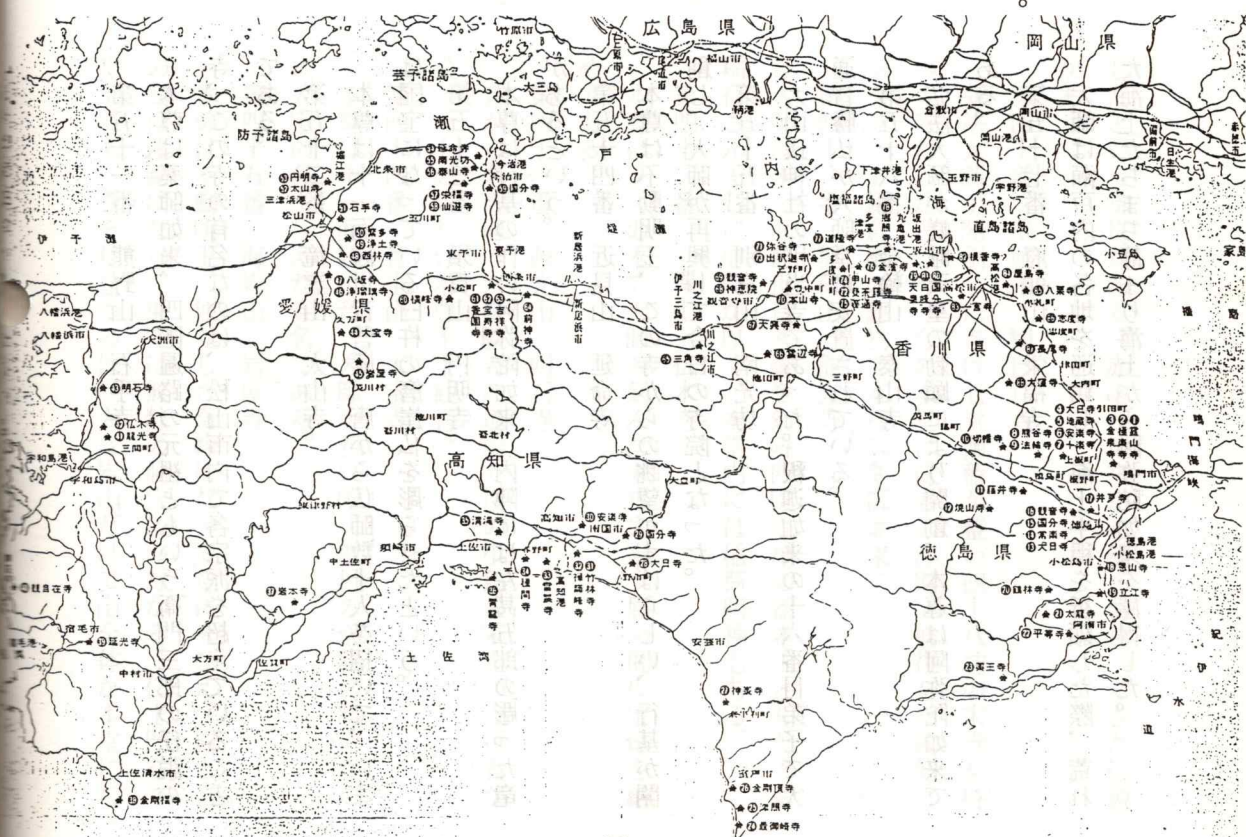
第五十八番 作礼山 仙遊寺

本尊は千手観世音、山の途中の道端に大師が多くの病人を治した加治水がある。大師が巡錫して以来荒寺を再興したという。

第五十九番 金光山 国分寺

行基が開創し、大師が何度も巡錫した。寺は茅葺きでも丈六の薬師如来の本尊であった。

予定の霊場巡拝を無事おえて愛媛の鈍川温泉で精進落しをしてバスにて東予港にでて夜行のフェリーにて大阪南港に早朝入港予定でそれぞれの家路につかれた。



## 人生を大切に

二期生 矢谷 留吉

生者必滅之者淨利 これはお釈迦さまの尊いお言葉です。

此の世に生を受けた者は必ず滅しなければならぬと、いっておられます。ですから生を受けて只凡々と日を送り天国に召されて行つては、何の意味もなく、もつたいないことです。一度限りの人生ですからやりたい事はやりとげ、一日一日を大切に悔いのない人生を送つてこそ此の世に生を受けた甲斐があるのだと思います。

昔は人生僅少五十年と申しましたが現在は人生八十年に突入しております。かえり見ますればその八十年どんな旅を続けて来たかなあと思うとき永くもあり又短かくも感じると共にこの躍進途上の田園都市に生を受けたことを誇りに思っております。私達が常に美しく人生を送るためには、雀百迄踊り忘れぬと言ふ諺のとおり、常に色っぽく身だしなみをして、きれいなお年寄りだと思われるよう、人と人とのふれ合いコミュニケーションを大切にしなければならぬと思います。その昔九条武子さんが「きみ知るや明日に散りなん花だにも力のかぎりひととをきを咲く」とうたわれた。まことによい詩だと思ひます。明日を生きるための今日でありたいものです。一日一日を大切に高令者である存在に誇りをもたなければならぬと思ひます。

昔より亀の甲より年の甲と思ひますから色々話し合つて氣づいた事を生かし心ゆたかに楽しく人生を送ることが何よりの幸福ではないでしょうか。その意味に於て昨年の榊原温泉の一泊旅行こそ研さん親睦を深めた楽しい思い出として何時迄も心の奥に残ることでしょう。又何かの本で見ました「人生のふれる総てが我が師なり導かれ行く老いの坂道」と総てのものを鏡として人生の雨嵐に負けず生き生きと世渡りをし、美しく悔いなし人生にしたいものであります。

## 老境のつれづれに

五期生 石田 義雄

老大同窓会の会報第七号を入手した本月二十の夜、一晚中に読みあげて、之は非常にすばらしいと会報の充実を評価し感動したものであった。

老日文芸科に入学して約二年、短歌と習字にあけくれして修了したもので、推敲と添削に依つて短歌に興味を持つ、約四〇名の学生が一生懸命に、作歌に務め、修了後五年の歳月が流れたが、此の現実の世にこそ人々の心の拠り所として歌讀む道を広むべきと、確信して止まない。歌は詠み易くて、入り易い五七七七七の三十一文字の定型詩である。

人生の終焉を告げる歳月に之を身につけようと作歌に精進しようとな願する。

海外旅行をする者の多い最近、私も東南アジア方面へもう一度独りで旅行したいと想うことも夢では無くなっていると思っ  
ている。過去の私の旅行は、十年前のハワイ旅行、続いて、香港・台湾と沖縄・北海道等で、最近では、二泊三日のY観光旅行社の九州、それから佐渡ヶ島、次ぎは所属団体が計画する高野山方面の旅行と楽しみが続いている。

私は又、守山市の青少年育成にも努力中であり、或は老人福祉の仕事もして、充実感あふれる毎日を送っている。短歌では、滋賀県歌人協会員であり渡辺朝次氏の関西霸王会に入会。或は、近藤芳美氏に教えを受けたり、今では滋賀県アララギ派の歌人山田平一郎氏に従い、月々投稿している。会員は百名に及んでいる。有料老人ホーム「ゆいの里」へは、毎月一回短歌講師として老人慰問に出張している。作歌経験三十年、今充実して歌詠みの生活に入っている。私の短歌に共鳴する二人の老女も現れ、一層の努力に熱がこもる。老人在学中は、自己評価で短歌は八十点位だとしていたが、名歌に学び、心の歌に目覚めて、今ではすばらしく魅力ある短歌道を発見したのである。

二、三此処に最近作を掲げる。  
老いてなお　ときめく心たのめるに

昭和は今日より平成となる

健やかにわが老境に　はぐくまれ

佐渡ヶ島にと旅立つ朝は

巡り合ひ　君と歩めば　ほのぼのと　五月雨の中

傘はふれあう

滋賀師範の中退から、止む無く警察官に二十五年奉職し、師範の同級生二名と警察の同期生の二名とが老大に於いて偶然机を並らべ、再会のふれ合い人生は、広いようで狭く人生に同じ道を歩むとは、と運命を不思議に思ったのである。  
私の寿命は後幾歳迄であろうか。九十才まで旅と短歌の喜びの道を歩き続けたいと念願している。

### 長い人生あせらず楽しく

六期生　森元　喜久蔵

この文は昨年九月十五日草津市公報の記事よりですが皆様の参考になればと転載しました。

人生わずか五十年といわれていたのが現代では八十年と大きく延びました。日本では今までは仕事中心の生活が当たり前で仕事以外で時間を費やす人は、よく思われませんでした。人生八十年時代の老年期をどう生きていくか。そこで健やかに楽しく年をとる方法？

一、人生を楽しむ知恵を持つ。

面倒がらず他人の目を気にせず何かにチャレンジする気持を持つ。

二、頭を柔らかく

他人の意見を大切に自己の理念を見つめ直す勇氣を持つ。

三、忙しくつづける知恵を持つ

自分に出来る何かを捜しマイペースに取り組む。

四、快適に暮す知恵を持つ

自分の力で魅力的な居心地のよい環境を整え余暇を楽しむ。

五、楽しい人付き合いの知恵を持つ

積極的に仲間作り心のふれあい、生きがいの芽生えてきます。

六、いつも陽気に生きる知恵を持つ

人生を楽しく感じられるよう自己を変革していきましょう。

七、魅力あふれる人間として生きる

一日一日を一生懸命働き楽しむことです。どの様に老後を迎えるかは私たち一人一人の課題です。

いつまでも健康で楽しく老いるために日々意欲を持ち生活しましょう。

先祖からの家に心をよせて

六期生 富田 もとよ

住みなれし 家屋こわすと亡先祖に

申し上ぐるは心淋しき

幾百年耐ゆる家屋は亡先祖の形見

なるをばこわす苦しき

今日も亦古き品々かき集め

幸 福

生れ難い人生に生れ、お蔭様でつゝがなく長寿させて頂き社会福祉に恵まれて本当に倅せな御時世に生を受け喜んで居ります。如何に幸福であるかを思う時、自づと我が力だけで生きて来たとは思えず偉大なる大自然の力、あらゆる生物の相互扶助による働きによって生かされていた事を、今更のように有難く思うと共に、あらゆる力、あらゆる働きを素直に受け入れて生きのびられる生能を備えていることをこよなき喜びとしている次第。市辺に故人となられた人達に対し、ありし日を偲びつゝ、余生をより感恩奉謝の生活を通して若者たちから喜ばれ感謝される存在として少しでも長生きしたいものだと思う。

## 人生と歩み

七期生 石井 也尺寿

祇園精舎の鐘の音 平家物語と人生八〇年の時代が参りました。私も現今七〇才に成りまして世間が少し知る事ができる様に成りました。子供の頃より旧国道仲仙道の思い出を記して見たいです。

東方に参りますと旧大篠原村と出町村があり、其の東北部近く国道八号線があり、今の大野洲町内のクリンセンター入口に約四アール余の池があり、此の池の名前が「蛙なかず池」と言っています。又近くに平家物語の平宗盛の胴塚があります。近く池で打ち首にされた時、宗盛の首を池で洗った時に血染に成り首洗い池と申します。又残った胴体は近くの丘に埋葬したのが現在のお墓胴塚であります。地元の住民は蛙なかず池を「かいる池」と言っています。殺された宗盛の無念でしようか蛙が現在では蛙が泣かないと言われまして、又池の中に生えて居る葦の葉も片方が付いて居りませんし、多分平宗盛の無念か念恨による思いと私も参拝の度に思いますが、旧中仙道側わびしい此の池です。昔の池の面影が消えつゝ有りまして淋しい思いでお墓に参拝して居ります。昔の宿場があった村です。旅人鏡宿で、旅籠屋を営んで居たように聞いて居ります。現在国道と野洲の街小提町近くに昔を少々残りつ有ります。野洲の町

も変りつゝ有り、人口約三万余です。此の地の東方に昔戦火跡をしのぶ城山が有ります。又近くに町立の歴史民俗資料館。銅鐸博物館が有り、昔の思い出を見ることもできて楽しいです。近くに子安地蔵と言われて居るお地蔵さんも参拝されて下さい。私は野洲の街の中心街中畑町に居りまして又近くに背くらべ地蔵さんも昔から地蔵さんに子供がお拝りして「背が高く成る」そうです。元気な子供にと拝んでお連になってはと思いません。

次回は辻を西に行くと県立高校があります。旧村「行合村」「中畑村」をお知らせ致します。

## 大正ロマンの哀歌

七期生 森野 三郎

近頃戦友会で出る歌を紹介致します。大正デモクラシーの世に生れた者は、明治の気骨に励まされ、昭和の元禄息子に馬鹿にされながら今も空元気で生きています。

日本歴史に嘗てない激動激変の時代を乗り越えて来た事の自信と誇を胸に秘めながら、懐古調の哀歌を咬みしめつゝ、奏でるのであります。

(1) 大正生れの俺達は

明治の親爺に育てられ

忠君愛国そのまゝに

お国の為に働いて

いくさの庭に死んでゆきや

日本男児の本懐と

教育されてた なあお前

覚悟も決めてた なあお前

大正生れの青春は

すべていくさのただ中で

戦い毎の尖兵は

みな大正の俺達だ

終戦迎えたその時は

心はうつろ 眼もうつろ

なすすべしらず なあお前

苦しかったぞ なあお前

大正生れの俺達にや

再建日本の大仕事

政治・経済・教育と

ただがむしゃらに四十余年

泣きも笑いも出つくして

ほっと息つきや 脛細り

それでも頑張ろ なあお前

まだまだやらなきや なあお前

(4) 大正生れの俺達は

六十、七十のよい男

子供も いまでは爺になり

可愛い孫も育ってる

それでもまだまだ俺達にや

やらねばならぬことがある

休んじゃならぬぞ なあお前

しっかり伝えてゆこうぢゃないか

ここはお国の何百里離れて遠き満州の……… あの戦友のメ

ロディで歌ったものです。

### 夢

八期生 伊藤 治初

八期陶芸二年間の、陶器づくりの楽しさ、面白さが忘れられず、卒業と同時にに入れてもらった、碧水荘の陶芸クラブだった。田園風景をながめながら、のんびりと貴生川まで草津線にゆられ、また、マイカーのトランクに他人さんからは、とても陶器と言ってもらえないような土の固りを後生大事に収納、国道一号线の混雑をかきわけて、通い出してから早くも二年余になっ



## 十期生を終えて

十期生 久保 和友

老人大学校へ入学したとき、「昭和生れですか」と、まず先生や同級生に言われた。そういえば十期生で、はじめて昭和生れの生徒が誕生したようだ。二年たつて卒業した。「老人大学校を卒業した、昭和生れです」と卒業式のあとのパーティでそんな自己紹介を私はしたと思う。卒業してOB会のまだ新米であり、駈け出しである。新聞記者にも駈け出し時代があるが、老人大学を卒業して私の駈け出し時代が始まろうとしている。何をなすべきか。

学校の必修講座では、そのような心構えをしっかり習ったつもりだが、いざ、駈け出すことになるとう方向がわからなくなる。先輩たちの御指導を今後もきびしく受けて、昭和生れの老人大学卒業生では第一期生として、がんばってみたい。

## 無 題

三期生 嶋 鉄男

同窓のみなさん、お元気で、お過ごしなさいますか。私おかげさまで、卒業以来、風邪一つひかずに達者で過ごしております。

す。

人間は、何か一つの希望をもって、それに熱中することが、一番大切だということを、よく聞きますが、漠然とした生活を続けていくことは、一寸目には楽しいことに違いありませんし、他人さんから見れば、あの人は、幸せな人だと思われるかも知れません。

私が老人に入学したいきさつは、いつかも申上げた事ですが、漠然とした生活をつづけていくことよりも、人生に生きがいをもとめることのできる「趣味」を友にもつことが大切だと悟ったことに他ありません。

陶芸という、何一つ素地のない私の生活は、五里霧中の毎日でした。途中なんども、棒折れしそうになる心の怠けに鞭うって呉れたのは、今「五窯会」の名の下に、技術を競い、情報を交換しあう、友があつたればこそ曲りなりにも今日があるのだと思ひ感謝しつゝ、毎日粘土をひねる生活が続いています。

宣伝になります、が、県公報紙の「しが」版のレイカディア構想の一頁に、「毎日」「産経」紙の外、月刊誌「花も嵐も」の一頁に「ちよつとい、話」として私の作陶の姿を紹介してくれ、た外、昨夏、京都市近代美術館で開かれた、所属している「日本美術家協会連合会」の「連展」に二点入選の栄をうけ、大変喜んでおります。

余り好きでもない趣味から始めた陶芸という趣味を与えて下

さった老犬に感謝しつゝ拙筆します。

## 惜しまれてこそ

十期生 菊井 元章

私はいつから老人になったのか分らない。医学、心理学の上では何歳から何歳までが幼年期青年期等と人間の一生をきちんと区分されているようだが、言うまでもなくそれは単なる便宜的に区分してあるにすぎない。けれ共その終りに老年期とあるのがどうにもならないのである。しかもその悲壮なことは当然のことながら「何歳まで」というその「まで」がないことである。それはそこが「人生の終り」であるということ、つまり「死んでいく」ということだから何としてもこわいことである。とにかく老人ともなれば「まで」は「人生の終幕」という厳然たる事実であることに心すべきである。

昔から諺には短い言葉ながら深い味合いがあるものである。その一つ「人間死にどき二十才、六十」というのも面白く考えさせられる。人間は出所進退が大切で、それを誤まると過去の栄光は無惨に傷つく。と同様に人間には「死にどき」があるのではないか。そしてそれは二十才、六十才であるという言いまわしが面白い。何故二十、六十が死にどきか。二十才では恐ら

く独身でいつ死んでも、傷つく妻子もない。その上二十才まで生きて死ぬと少々つまらん者でも可愛想なことだと惜しんでくれる。六十才ともなれば子供もたいていは世帯をもつ。嫁いだ娘は孫が生まれると、おむつの洗濯におばあちゃんを呼ぼうと思っている。町に出て商売をしている息子は忙しい時には親父を呼んで手伝わしてやろうと考える。そんな時にコロッと死んだら「やれ惜しいことをした、もう十年も長生きしてほしかった」と惜しんでくれる。笑い話ではない。人情の機微を通して「惜しまれる人間であれ」との教訓ではなからうか。寿命が延びたと喜んでいても死んで惜しまれないような人間のどこに生きた価値があるうか。僅か三十年の短い人生であっても死んで惜しまれてこそ、本当に生きた意味があるのではなからうか。私は果して「死んで惜しまれる人間」になれるであろうか。心配である。

## 忠と孝は明治大正と共に

### 遠くなりにつけり

三期生 中嶋 庄右衛門

私等の小学校時代を追想する時、小学三年ともなれば内容も詳しく判らぬまゝに教育勅語を暗唱「父母に孝に始り一旦緩急

あれば義勇公に奉じと一にも二にも父母には御恩を謝して孝養を尽せと兄弟姉妹は仲良く夫婦相和し朋友相信じ博愛衆に及ぼし一朝有事の時は己を捨て国家に殉ずる覚悟にあるべし」と教育を受け又そうあるべきと固く信じておったのであります。そうであつた当現役と二度三度の赤紙召集にも何の危懼する事もなく死を鴻毛の軽しと父母や妻子に別れを告げて戦地へ馳せ至り砲煙弾の中膝を没するぬかるみ、山又山俊険をよじのぼつての山岳戦、突撃又突撃と敵弾に斃るゝ友をのり越え敵陣深く突入是れが国の為、父母の為と堅く固く信じて戦陣で死闘を連日昨日も今日もと反復したあの当時は今も目のあたりに浮ぶのであります。

それも今の日本の社会では日と共に風化が甚だしく全く将来を憂れうる者は私し一人ではないと思ふのであります。

毎日のテレビ、ラジオ、新聞のニュースを見聞する時あのリクルートも何処へやら消費税に云々され隠れたかの如く結論は遠くへ去ろうと、又其の裏からパーティがぼつぼつ芽生えているかの如く思われる時全く慚愧に堪えません。

又一方新聞の三面を覗く時、テレビニュースを見る時自殺、殺人、家庭の悲劇等々日々目に余るものばかり思われてなりません。

之は国にも社会地域にも責任があると云わざるを得ません。吾が子が結婚すれば其の戸籍は分割される今の法律から見

独立したかの考える人もあらず精神的にも因をなしているのではないでしようか。

又一つには二人共稼ぎでローンで自分の持家、日常の生活費もあるがそこで夫、妻かどちらか脱線すると家庭が破滅と言う悲惨な事件となるのであつて之も社会や地域にも責任ありと言うべきでしょう。

今に於て国家、社会、地域ぐるみで総力を挙げて百年の大計を樹てる必要があると痛切に感ずる者であります。

## 生きがい

九期生 大川 竹

滋賀県社会教育放送利用推進協議会主催の「近江路テレビセミナー」に若い人のグループにまじつて、参加してもらつて有意義な講演や開催会場の名所の見学等ほんとうに楽しく勉強さしてもらつて居ます。始めは私のような年を重ねた人は無理だろう又参加者の中にはいないだろうと思つたが大丈夫だった若い(四十〜五十五、六)の男女が七分であとは年を重ねた人達、あとの三分の方々の元気と意欲的な姿勢は老大で勉強しているのかな…と思つほど熱心な聴講ぶりです若い人達には負けていません。

すばらしく、一年振の再会を歎び合い料理は美味しく話は弾み楽しいひとときを過しましたが、歳月の流れは早く、老大に入学したのは昭和五十三年で一期生陶芸科は男一四名女六名でしたが今は退会一名死亡七名と現在では十二名となってしまい同期生が集うと七名亡くなられたという実感が身のうちに散っていきます。出会いから別れと過ぎ去った日の思い出を辿ると一期生の陶芸教室は近江八幡中央公民館で設備もなく不自由でしたので途中から信楽で習うことになりましたが、草津線信楽線の回数は少なく勉強する時間も充分になく一年が過ぎ二年生となって、貴生川碧水荘で高名な大西忠左先生との出会を通じ陶芸を喜びと楽しさの火が点り今もその火は消えやらず陶一会のうち四名は碧水荘に通っております。

余裕の美学「陶」これしかない、これしかない、と年賀状を下さった陶友がありました。

老人の生き方に望まれるのは意欲をもって前向き姿勢で生きることでしょう。

頭を、手を使って、おしゃべりして笑って土ひねりをするのは何にも勝る健康法と思っています。

## ふるさと探訪

二期生 宇野 よしゑ

婦人部行事としての「ふるさと探訪」第二回研修の旅をもつた。

時、恰も秋酣、十一月の好季節！参加者四十名。男子会員も加わって下さったことは嬉しい。

車は紅葉する美濃路をひた走る。嬉々とした同窓生の顔が爽やかに映えている。

垂井宿を越え表参道の大鳥居を潜って一キロ。朱の鮮やかな南宮大社に降り立つ。

！なんといっても社殿の壮観さは、目をみはるばかり。

北は伊吹の山なみ、南に養老山系、その間、数百町の全山が大社の境内である。広大な社殿は松皮葺き、木賊葺き、彩色造りが入りまじり、古い伝統が守られた所謂南宮造りそのものである。

朱塗りの華麗にして壮嚴な宮居は、神威を象徴し老杉、古松に映えて尊嚴極まりなき神域であった。おのずから頭の下がる思いで濃尾の祖神に礼拝！その清新な気持で先ずは全員写真撮影。

！美しい真摯な心を顔面いっぱい表わしてパチリ。

曾ては、中仙道赤坂宿から谷汲街道に沿って、お遍路さんが

鈴の音を響かせた道中を― 車でやすやすと三十三番札所、谷汲山― 華嚴寺につく。

開山は遠く平安時代に求められるが西国巡礼満願霊場として定着したのは、室町時代であるという。修行僧が足早に参門を潜って行く後姿が印象的であった。

百八基の石塔、鐘楼堂、阿弥陀堂を仰ぎつつ口を嗽ぎ手を清め心洗わるる想いでみ仏の前に座す。現し世の雑念を払い香をたき蠟の火を捧げる―吾がたましいも暫し無垢となれ。

ほの暗い本堂、しみついた線香の匂い、善男善女の嫋嫋とした読経の流れる。

谷汲さんは庶民と御仏が渾然と解けあっていた。私は極楽の錠前を頂くべく階くだりゆき暗黒の中の「戒壇めぐり」をした。

・須弥壇の真下の闇に探りつつ  
触れしえにしは極楽の鍵

御堂を出でて現し世の空を仰ぐ目に紅葉の錦はまばゆく映えていた。

参道に面した創業も古きお店の奥座敷で楽しい昼餉のひと時にむかう。

山菜、川魚、田楽といった味わいのある盛りたくさんの料理に舌つづみ― 時間も心もゆったりと満喫。

再び車の人となる。時雨に色増し真紅に燃えた紅葉が一入美しく心にくい入る。

桓武天皇の勅願によって伝教大師が薬師如来像を彫刻し創建されたのがここ横蔵寺である。

境内の奥深い舍利堂には「入定妙心法師」が如来の来光を感じ得して（信心が仏に通ずる）断食座禅に入り、本懐を遂げられた「ミイラ」がそのままの姿で二百年後の今尚祀られている。

少し首を右に傾むけ両手を胸に組んだ座禅の尊姿を目のあたりに拝した。凜とした凄まじい靈気に接し只ただ額づくばかり。

・幽暗の堂に鎮もれる舍利仏に  
樹々も靈気のしづけさ保つ

・表情をもてる如くに安座せる  
木乃伊穩しき横蔵舍利仏

断食ミイラとして宗教界の霊現であると共に学術的にも貴重な存在とされている。

帰途は商売の神様「おちよぼさん」で親しまれる「お千代保稲荷さん」にお詣りする。八幡太郎義家が祖先の霊と宝剑等三種の神宝を「千代に保て」と子孫にゆずられたのが此の名の始まりとされている。

ひとすじの藁に油揚げと豆の刺したのをお供えし、ぐるりとひと廻りしてご利益を人並にお願ひした。参道筋には古い川魚料理店や昔懐かしい玩具、色々の土産物店、植木市等がぎっしり軒を並べている。結構楽しく見て廻る。かば焼きの珍味、草餅、こんにゃく、新鮮な野菜等々みんな一生懸命に買っておら

れる。又大変安いのが嬉しい。

・おちよぼさんの門前町をもとほりて

老婆の商ふ仏掌薯あがなふ

五平餅、石焼き芋を頬ばる人ー みな童心にかえり老大同窓生  
いと愛らし。

車中には皆の満ち足りた顔、顔が並ぶ。

今回は研修の中にも充分ゆとりをもった旅をと考えた。旅をする事により自分を普段と違った非日常的な世界へ誘う事によって、未知への憧れ、自然風物から受ける新鮮さ、魅力、感動は又一入であった。

私達は楽しい新しい「あるなにか」を発見させてくれるに充分であった。

車は一路帰途に向う。

鉄道唱歌ー汽笛いっせい新橋をー で始まり六十六番迄をプリント学習。特に近江路に入った三十二番から四十四番迄は力強く大合唱となる。残るところは地図とてらしながら家庭学習の課題へー。

暮れ早い秋の陽はとっぷり落ち、いろいろの思いを胸に家路に急いだ。

## 年輪ピック大分大会に

参加して

三期生 吉川 保三郎

健やか人生、きらめくのち、をテーマに十一月三日から十一月六日までの四日間、年輪ピック大分大会が行われ、五八の都道府県と指定市の参加であり、滋賀県からは、十種目、百九名の選手が参加し、私達は軟式テニスの部で、九名の者が親善と交流を目的にした、健やか人生大会に参加出来ました。

出場して来た選手の人達は潑刺として、それぞれお揃いのスポーツウェアで、年輪とか高齢という言葉は勿体ない様な若さと元気です。コートで力一杯にラケットを振り廻している姿は、正に青年であり、娘さんの様に見えます。

ダッシュする時、帽子が飛び、頭が光る。汗を一杯にかいてスタンドに戻って来た時は、女性の人にも深いシワ、テカテカに禿げ上がった男の人の頭。やっぱり年輪ピックでした。人々の平和と、活気に満ちた笑顔が確かに息づいていて、立派な年輪ピックでした。

この大会は積極的に、生きがいのある健康づくりに参加して交流の輪を広げる事が大きなテーマでしたので、勝敗は二の次です。親善交流が主目的であったので、気楽に参加しましたので、成績は皆様が想像して下さいです。

コート整備をしてくれる女子高生から、滋賀県のお父さん頑張ってネ、勝ってネと励まれて、ハッと吾が孫の応援を受けたように大変うれしく思いました。

大分県の看板の大きかったのは一村一品運動でした。優れたものを掘起し、磨きをかけて努力しようと、此の新しい心つもりを地域に植えつけようと、一村一品運動に力を入れ取り組まれておられました。

此の期間晴天に恵まれた毎日で健康の幸せ、自分の健康は自分で守らねばならないと思いました。何よりも嬉しかった事は多くの人と出逢い、そしてふれあいと感動した事です。

このテニス大会の印象は、スポーツは人の心を明るく潑刺と生きる原点を持ち合していること。

どの試合も笑顔に満ちた大会で人を引きつけるテニスは、人気のあるスポーツでした。

今年はお県において 第三回全国健康福祉祭びわこ大会が開催されます。大分大会以上の心も、湖水も美しい近江八幡。

緑の滋賀びわこ大会を盛大に催されるように、私達も温かい情熱を燃やしましょう。

## 老人大十周年に想う

五期生 端 藤兵衛

滋賀県において老人大学校が開校されてから早や十周年を迎えるとのこと私達同窓生として誠に感無量の思いで心から慶祝の意を表したいと存じます。同時に学校の創設に力を尽くされた多くの関係の方々に対し深甚なる敬意を表し心からなる感謝の言葉を捧げたい。実のところ私は人生の終り近くなって又もや学校の生徒になれるとは夢々予想もできなかった。老大へ入学できるという悦びと永くはなくとも将来への生涯教育の希望と期待を抱かせてくれたこと、この心の躍動は惹いては老人の健康増進にも大いに役立ったこと、思われます。老人大学創設の意義は見るべきもの多大なりと信じております。

ひるがえって私は在学中不勉強でよくも卒業させて貰えたものと特に辻先生には申訳なく思っております。在学中の恩義は別として私が最も有難いと感じていることは卒業後同じ園芸科の同期の方々といつまでも親密に交際して戴いているということです。恰も若い頃の中学校の同級生が互にオイコラとわだかまりなく語り合っている、それと同様に同期生が毎年一回は会合し親睦を深めておりますが実に楽しいものです。八十路近い年寄りの集いとは思えない元気で和やかな雰囲気終始して人との交流の有難味を満喫させて下さいます。何ものにも代え難

い貴重な人生の宝です。之もみな老人大学という結びの神様のお蔭であることに間違いありません。

十周年を衷心よりお喜び申し上げます。

「ねんりんピック」に

参加しましょう。

八期生 竹村 善一

「輝く長寿、あなたとともに」

ねんりんピックのメイン・テーマです。

第三回、全国健康福祉祭、びわこ大会は、平成二年九月二十九日（土）から、十月二日（火）まで県下各地で開催されます。高令者を中心とするスポーツと文化、福祉の祭典です。

私ことですが、この祭典、テーマ標語が、幸なことに入賞しました。「健康・友愛・であいふれあい・福祉の祭典」です。

私たちの祭典、老人大学OBは勿論、学生こそって参加しましょう。人生、生涯「知・徳・体」のれんまです。この好機を逃がさないよう、大会成功のために頑張りましょう。老大OBの心の交流を深め、身体たんれんに努め、文化教養を高めるよう、生きぬきましょう。

私たちの「ねんりんピック」みんなが一生輝けるように、レ

イカディア（湖の理想郷・滋賀）をつくっていきましょう。

すがやかに老いを、学びて淡海に、韻きあいつつ、

明日をひらかん、

この私たちの校歌のもと、湖の理想郷づくりに、ねんりんピックに参加することによって、態度を示そうではありませんか。

健康 安全 長寿

福祉の町づくりは

私たちの手で…。

偶 感

八期生 田口 敏之

昭和六十二年県老人大学校を卒業し、もう二年余となりました。

私は、第八期文芸学科の有志の「波知起会」という短歌教室に加入して、毎月第一木曜日に、大津市立老人福祉センターで短歌の勉強をしている。

添削指導は、ご存知の伊藤雪雄先生で、昼食を共にし歓談しつゝ楽しいひとときを過している。

今や高令化社会を迎えて人生八十年時代に進入している。

私の住んでいる新興住宅団地には、六十五才以上の老人は多



くはないが、最近とみに腰痛や膝痛を訴え、日夜辛い生活をしている方が増加し、また、循環器や呼吸器、消化器等の内臓疾患のため物故する者も殖えている。

剩え、当団地に近接して国の第六次空港整備計画に便乗しての滋賀空港建設のための気象観測作業も実施されている。

空港開設の暁は、空気汚染、騒音公害、自然破壊等により住民の健康が蝕ばれることは必定である。特に社会的弱者の老人・児童にとっては重大問題である。

すべて国民は、健康で文化的な最底限度の生活を営む権利があり、多年にわたり社会の進展に寄与して来た者として老人は、敬愛され、かつ、健全で安らかな生活が保障されるべきだといひ、児童は、人として尊ばれ、社会の一員として重んぜられ、また、よい環境のなかで育てられる云々と憲法や法律憲章等に明文化されている。

然し現実はきびしい。

老人の寿命が、長くなると共に生き甲斐を何処に求めて生きてゆくべきか、生活の人生も長くなってゆく。

これがためには、何を措いても健康が第一である。

保健・医療・福祉の三本柱が重要と宣伝されているが、病気になるったり入院したり、施設に収容されたり、寝たきりになつては生き甲斐のある人生は送れない。

「保健」即ち「心身共に健康」であることこそが心から肝要

と痛感する次第である。

決して長くない残りの命を、健康で楽しい生き甲斐のある人生となるようお互に頑張りましょう。

## 同期のもみじ・・・会

九期生 奥井 芳郎

私共は老大文芸学科九期生です。卒業時に「少なくとも年一回は出会しましょう」との約束で、今回は神崎郡の四名（永源寺、能登川各一名、五個荘二名）がお世話をさせて頂くことになりました。

秋といえば紅葉、湖東の奥座敷永源寺こそ。早速連絡し合つて案内を恩師藤本英湖先生と県下学友二十四名へ発送しました。しかし、何といつても湖北、湖西は遠い、半数も参加があればと思つていたところ、よんどころない用事の四名だけの欠席で、藤本先生はじめみんな来るとの返事を頂きました。

予め会員より俳句を三句ずつ投句して頂き、私共の句集「楽老」第三集を編集しておきました。

当日（十一月四日土曜日）は好天に恵まれ、うっすらと紅葉しかけた永源寺に参詣、境内を散策して永源寺会館へ到着。初めに亡くなられた学友に黙禱を捧げ、藤本先生のご指導で句会

を始めましたが、だんだん熱が入って延々二時間におよび、会食の時間がなくなるのではないかと世話係はヒヤヒヤ……。やっと宴になり、窓から愛知川ダムを囲む鈴鹿の山脈を望みながら、コンニャクの精進料理に舌鼓をうちました。

老大は年の差を越えて、友はよきものなつかしいものです。いついっまでも健康でお付き合いできることを願いつつ、また会う日（次回は湖北の予定）を約して、午後三時過ぎマイクロバスの人となりました。

## 老大をかえり見て

五期生 松本 とみ

老大五期生を卒業して早や五年余り、二年間の受講、社会問題、生涯教育と先生方の御教訓を身につけ今日社会の一員として日々を送っております。我が国は科学の進歩と高度の経済成長により生活は豊かとなり、寿命は長寿国となった、大変うれしい事ではありますが、私はいくら長生きをしても病氣・ボケ老人であっては幸福とは言えないと思います。健康で長生きしたいものです。先ず健康が第一は皆の人達から出て来る私達老令者の言葉です、さて老人達の仲間が目立つのはともすれば自ら毎日用事がなくなった身だときめつけてかかり、多くの老令

者は家にこもりテレビの番人になってしまふ、多くの人と人との中に交る事を忘れ家庭で毎日を過すことであります。社会の変化に対する正しい認識と努力、自分の行動を広くする事により多くの人との交流を持ち、現在の人生をより生がいのあるものとする事は現在社会人と生活を楽しくすることになります。又心の豊かさがほしい。それはお金では買えません。文化・教養への欲求と言うことはまさに心の満足感を高める表れなのです。豊かな感受性を持つよう努力しなくては人生の生きがいも失っていくことになる。夫婦、家族、あらゆる人達と結び付きを、ユニークに保つことが大切です。老後における思いやりの精神、特に夫婦互に心の思いやり、つながりがどれだけ強い絆で結ばれているかによって老後をまさに美しく生きるか否かと言う事につながっていく事だと思えます。老大の教訓を思い出しながら、毎日生き生きと社会奉仕にはげんでおります。卒業生の皆さん健康でがんばりましょう。

## はるかな想出

九期生 中西 初江

征く夫を笑顔に送り独り寝に幾夜泣きしも遠き日となる  
結婚後五ヶ月主人は応召で戦地へ。妊娠三ヶ月とわかった時喜

よりも不案が先立ちどんなに苦しかったか。昼は銃後の妻らしく装っていても夜となればとめども無く流れる涙をどうする事も出来なかった。主人の為にも生れる子供の為にも泣いてはいけないと自分で励ます。はるかな遠い想出である。

脳出血癒えゆく夫をいたわりて征きし日の事言へば涙す。

軽いとはいえ脳出血と云う病気は以前の主人を全く変えてしまった。何かと言へばすぐ涙が出る。苦しみ多かった時代をふりかえれば口許迄ゆがめて涙を流す。苦しかったのは主人ばかりではない。私も食料難の時代子供をつれて夢中に生きて来た。今思えば若さがあればこそ生きぬかれたと人生の前半を思う。

八十過ぎし鳥羽の戦友が夫を訪ね来て南京攻略を語り涙す。思いがけなく主人の戦友が尋ねて下さった。鳥羽の海で来た人、八十才を過ぎていそうであるが全く若々しい。人生の終着駅につく迄に一入なつかしい人、思出の土地等々気ままに伺っているとの事である。主人の病癒えつつあるを人に聞いたと見舞って下さった。主人がいつも戦友会程たのしいものは他にない、と言っていたがなる程と思う。話はずきる事無く笑い泣きあの人この人と遠い想出にふける。

老大九期生として学び二十幾人の友を得ました。何と素晴しい人々とのふれあい。二年間共に学んだ事も一日一日遠ざかりはるかな想出となる。けれど年何回かの出会い、ほんとうに待遠しい。次は誰が幹事？梅も桜も紅葉も川もよし、北から南か

ら皆さんの笑顔をたのしみに心待ちしています。

## 人のつとめ

三期生 辻 幸夫

庭先の奥にある大きな樺の葉もすっかり落ち、長い昭和が終って大ゆれにゆれ大きな問題を残し乍ら平成元年も終ろうとしている。私は毎日夕食の前に今日を反省し来る日のしおりとして明日の計画を日誌としている。

農業の目標は正に収穫にある。五ヶ年の農業日誌を資料として、来る年の気候の特徴を早くつかむことだと考えている。本年はお蔭様で自分なりの結果が出て楽しんでる。米作りも楽しいがそれにも増して畑はそれ以上に変化の多い仕事が多く工夫し乍ら努力している本年は落花生と大きい黒豆の収穫も終わった。土中に酸素を送る工夫が第一のようで太陽と土のお蔭である。幸い健康に恵まれ働き乍ら考え乍ら工夫し乍らの毎日創意工夫使えるものを工夫して使う楽しみも又楽しい。挿木で増した前庭の特性が生きよく育っている。

四年間の老人会の役を終え、昨年四月より県の彦根保健所で水生生物研究会に入会し、河川の水質研究調査の方法を教わって二年目、水生生物による水質を判定する方法である。生物群

集区分法でその河の汚れを知る方法である。水生生物から見た河川のごこれはきれいな河は矢倉川の上流、芹川上流、犬上川(全)、宗曾川ダム、愛知川(全)。やゝきたない河は市内の矢倉川、猿ヶ瀬川、平田川、野瀬川、江面川、安食川、宗曾川下流、文祿川、みな川、新愛知川で人の住む地域が相変らずよごれている。琵琶湖の調査も次の仕事である。又この四月から彦根市の交通指導員を依頼され九ヶ月年間四十日朝七時三十分から八時三十分まで。今まで自分で運転して気付かなかった気くばりの心がわかり又高令でもこの仕事はできると思っている。中学生の朝の挨拶、小学生のありがたうの挨拶を聞き明るいふれ合いを味わっている。今はみんな安全な道路の利用を願っている。

気・情・意の三つを心に毎日を努力したい。これが自分の明日である。

## 老大の二年間を偲んで

九期生 田中 淑子

生活学科の第九期生として老大に入学許可されて、すっかり遠ざかっていたペンを片手に少女時代に返って心はずませた二年間夢の様に過ぎました。くじけそうになる時も何度かありま

したが、卒業間際にはもう一、二年卒業を延ばしてもらって勉強が出来たらどんなにうれしいなど、友達と話し合う程楽しい有意義な二年間でした。今日は合同会館つぎは厚生会館での講義と此度は近代美術館と家庭からはなかなか行けない所へ。

県の商工労働会館では模擬議会の傍聴と色々の勉強をさして頂き、皇子山総合運動場の体育祭には、トレンジャツまでもとめ下駄箱の奥から運動靴をさがし出して張り切った事などなどつぎつぎと走馬燈の様に思い出されて懐かしい事ばかり、卒業記念には園芸学科の方々と生活学科の福井さんのお骨折で、合同で山代へ一泊旅行。あれこれと思い出して過ぎし楽しいひととき人間関係のすばらしさ心から感謝して居ります。

又先日は永源寺の紅葉狩にお誘いいただき近江線の電車の時間まで詳しくご連絡下され八日市駅では皆さんと落ち合い久しぶりに懐かしい顔々。早速つもり話に花が咲き一路バスで永源寺へ、都合悪く雨となりましたが我れ感せず少し早めの紅葉を観賞しながら昼のパーティではカラオケ又とって置き隠し芸など発表され時間の立つのも忘れて過ぎし別れを惜しみ乍ら又の会う日を約束して帰ってまいりました。

健康であればこそ見る物聞くもの楽しく神仏に感謝しつゝ、毎日を通して居ります。

## 陶芸は楽し

三期生 川村 順茂

「十才の少年にとっての一年は、その人生の十分の一に当るけど、七十才の人にとっての一年は、七十分の一にしか当らない」

誰の言葉か忘れたが、成程と思う。長かった昭和の時代から、平成元年と改まった今年も、あと十余日を残すのみとなり、今更慌てゝも仕方がないのだが、時の流れに順応出来ぬ自分が情ない。

ところで滋賀県に老人大学校が設立されてから、十二年目を迎えようとしていると思うと、驚かずにいられない。私が陶芸学科の三期生として入学したのは、遂この間のことのように思はれるのに、昭和五十五年のことなのだから、歳月は人を待たずの名言に頭を下げるより仕方ないと思う。

私が陶芸科に入学した時、同級生は十六名で、水口の老人福祉センターの碧水荘で、月に二日間の実習を二年間受講したのだが、生来不器用な私は、今日は茶碗を作りましょう、次は花瓶をと云はれても、どう粘土をひねくって見てもなかなかうまくまとまらず、途方にくれたものでした。それでも二年間の学習を終える頃には、何とか作りたものが作れるようになり、陶芸の面白さも会得出来たので、卒業後は自宅に窯を設置して、

今日まで趣味としての作陶を続けて来ました。

私ら三期生は卒業後も、陶味会を結成して年二回の会合を繰返し、そのうちの五人が自宅に窯を設けて、作陶に励んで居り五窯会と名づけられて屢々研究会を開いて、お互いの作品を持ち寄って批評したり、感想を述べ合ったり、また最近ではデパートなどの展示会にも出品したりして、希望者に即売したりもしています。

とに角、最初乗り気でなかった私が、今は年寄の趣味としては、陶芸に勝るものはないと信じるまでに、ぞっこん惚込んで終ったんですから、おかしなものです。

陶芸を始めて気付いたことは、作る楽しみだけでなく、釉薬掛けの楽しみ、本焼をして窯出しする時の胸のわくわくするような感激、期待通りの、いや期待以上の美しい焼上りの成品を得た時の嬉しさ、自分の作品をいつまでも愛用して楽しむとか、いろいろ幅広く楽しめるので、飽きることはないのが何よりだと思います。

また指を使って土を捏ねたり、紐作りでいろいろ作品を作ることが、適当に脳を刺激して、老人呆けの防止に最も効果的だそうで、現に吾々五窯会の面々は、平均年齢七十三才の高齢ながら、皆元気で暮して居ります。これも陶芸を趣味として、いつの間にか十年を過ごした長期間の効果の現れかと思ひ、感謝の気持を抱きながら、今日も窯場で作陶に精出して居ります。

これから老人大学に入学を希望される方がありましたら、陶芸学科を希望されることをお勧めします。

## 我が身を度せん

五期生 西沢 正三

生死事大・光陰惜しむべし、無常迅速、時人を待たず、人身受け難し、今己に受く、仏法聞き難し今己に聞く、この身今生に向って度せずんばいづれの処に向ってこの身を度せん。

これは中峰和尚座右の銘の一節である。人間はほんとうに身勝手なもので、言い放し、したい放題、食いたい放題の一面があります。言論の自由、思想の自由、行動の自由等、たいへん結構なことですが、然し限度があります。凡夫の故、なかなか限度をわきまえる事が出来ません。したがってこの身今生に向って度せずんば何れの処に向ってこの身を度せんとおっしゃったのであります。もっともっと自分自身を規制して生活したいものだとの意であります。私達老若男女すべて自分をコントロールする事が大切です。ある研修会の話ですが、おばあさんと嫁さんが喧嘩しました。嫁と姑の宿命的な対決です。そのやりとりですが、おばあさんは嫁に向って、お前のような者には一生世話にならんと日頃の憤りをぶちまけました。嫁さんは嫁さ

んでおばあさん覚えておきなと言ってその場は終わったのです。その後どのように展開したでしょう。おばあさんの言った言葉は禁句で、たやすく口にすべきではありません。然し考え方によつては現在のおばあさんとしては勇氣ある発言です。そのおばあさんが病気になる入院する事になりました。然し嫁さんは心をもち直しておばあさんの世話をしました。本心からか、世間態を気にしてかはわかりませんが献身的な世話をしました。然し手厚い看護に拘らずおばあさんは他界されました。おばあさんは死に際に嫁さんの手を握り誠に申訳の出来ない言葉を言きました。にも拘らず献身的なお世話有難うございましたと言つて息をひきとりました。病は医師の治療で治つても言葉は永久に消えません。心したいものです。嫁さんの看護は見上げたものです。自分の心を殺しておばあさんの為に尽くした心がけは感激の至りです。自己没却、自我を棄て真我の世界に生きられた心こそ仏心であり自分の身を度せられたと思います。煩惱具足の凡夫自己をおさえて他の為に尽くしたいものです。

## 私の近況

二期生 岸田 七次

その頃は近江八幡市が主会場でしたので、湖西からは向いに

あるのに、回り道して行かねばならず、朝は早くより出かけ、帰りはおそくなつたものです。

卒業後、老大同窓会の高島支部結成に努力された、井口章夫支部長の後をうけて、支部長の仕事を引きうけ、昨年ようやく任務を終了いたしました。

おかげ様で心身共しごく達者ですので、若い時からの『社会保険労務士業』を経営し、年金相談等で、郡内を巡っています。又、ゲートボールや、趣味の会で、日々忙しく楽しんでいきます。老大公開講座は、必ず聴講しております。

## 作句の喜び

四期生 森 三郎

国土の七〇パーセントの緑地を有して、百パーセントのパープを輸入する経済大国日本。

師走の朝はカラフルな宣伝紙が、新聞に抱かれて、毎日配達されて来る裏面の白紙は、大切に趣味の俳句作りに利用して居る。時には二つ折りに重ねると、小冊子にもなる。今後も上達は望まないが、限り有る資源を生かし物を大切に作る習慣を作り出し、愉快な作句を続けてゆきたい。

平成元年の入選作から

◎ 一山の息整えて冬に入る

◎ 囀や奉仕に集う神の庭

◎ 藍染の手縫の形見更衣

(県老大同窓会比叡山研修参加)

◎ 露涼し歩も即禪と僧に従く

◎ 今年米折目正しき紙袋

## 私の楽しみ

六期生 宮川 市治郎

私の楽しみ第一は、盆栽を育てることです。

どこまでのびるか、何よりのたのしみです。

ゲートボールは、スポーツマンシップを尊重されない向もあることを考え、監督と審判に勉め、ようやく二級をいたゞき、一生けん命にきばっています。

楽しい旅行にも、度々行っています。最近では、九州の知覧で、自爆された若人を偲び、感慨無量にひたっていました。ハワイでは、寺院は輝き、水上マーケットは異様でしたし、首相が自家用車で登庁し、街には塵一つ落ちていませんでした。

## 老大の幸せ

七期生 林 スエノ  
万木 ミヨエ

光陰矢の如しと申します。老大卒業して早や三年に成ります。老後の生活を豊にする為の学習で、高島町から二名が入学を許可されて一生懸命に大津厚生会館に通いました。講義に、手芸に、料理実習、又はゲートボール大会に出場して、久し振りに心地よい汗を流した事もありました。又五個荘町のきぬがさ荘の慰問や、県内各地の見学、そして最後の卒業旅行の吉野行は楽しく見学場所には各々の趣があり、一生の良い思い出と成りました。二年間通い県内に沢山の友達が出来て、何より幸いです。後長くもない人生、悔いのない心豊かに過し度と念じています。

## 九〇年の朝あけ

八期生 梅村 てつ

ハイシー、ハイシー

歩めよ

子馬

山でも 坂でも

ずんずん 歩め

お前が 歩めば 私も歩む  
あゆめよ あゆめ 足音高く。

平成二年の 朝あけ  
身も心も すみきった

いくつになっても心と身体の  
バランスが とれるように  
日々の暮しを 心がけて

健やかに 老いるための  
努力をしつつ

明日に向けて  
前進しましょう。

## 年 輪

九期生 霜降 利兵衛

昭和六十一年に、中江藤樹先生の陽明学探訪で、中国を訪れました。

翌六十二年には、台湾を訪れました。  
またこの年の秋には、イギリス、スペイン、イタリア、スイ



であった。

庭の盆栽も、二年間で急に増え、藤のつぎ木は幾鉢にもなり、梅、石楠花もたくさん蕾をつけ、春の開花がたのしみである。

盆栽展を鑑賞する着眼点も広くなってきた。

老大の学習で、教材を十分に準備し、理論と實際を指導下さった嶋岡孝夫先生に、改めて感謝すると共に、生涯の楽しみとして、盆栽作りに頑張っていきたいと念じている。

## 夫婦で学ぶ

十期生 藪内 平内  
富子

私たち、ふとした事から、夫婦で老大に学びました。

主人が園芸科に入った動機は、庭の手入に植木屋さんが思うまゝにならず、思いついたことが幸いして、卒業後は、『庭の手入れは俺が一手に引きうけた』と、思いもかけぬ喜びを味わっています。

私の生活科学科では、地域毎の嗜好こらした同窓会を開く話し合いをして、十一月二十七日に手芸の先生をお招きして、第一回の同窓会を開きました。

『二人お揃いで、お幸せでございます』とみな様からほめてもらっています。意義ある二年間でした。

## アロハ会の旅

六期生 広部 庄太郎

万事はや去年今年となりけり

昨年は、老大の縁に依って結ばれた、アロハ会でタイやシンガポール、マレーシアの旅に行くことができた。

バンコックに着いたのは、クリスマス夜の夜、ツリーの美しく街を同伴の家内と散策したことが頭に焼きついている。

メコン川を船で渡り、霊験あらたかな寺院にお参りしたり、極楽にでも行ったような気分になって「生き甲斐」即ち、「行き甲斐」の旅となる。

空は紺碧、日本語の達者なガイドの軽妙洒脱な案内に恵まれたことと、あちこちで金髪娘に出会い、ほんのりと桃色に帯びた白い肌、頬には柔かい産毛がほのかに揺れて見飽きぬ眺めもあった。

「フランスに行きたし、されどフランスは遠し」と言った人がいたそうだが、登りつめた齢になって、小さな私にできることは、ただ旅をすることだけである。こんどの空の旅で、世界で三番目に高い、七十三階のホテル（ハイアットホテル）の三十五階の窓から御来光を眺めた時の感激。大きいガラス張りの浴室に、バラの香の漂う湯の中でせっせと皺を伸ばしている老妻をそっと抱きあげたことの思出。

市内観光では、植物園やタイガーバームガーデン等、午後はマレーンヤ領のジヨホールパールの観光に、携帯したビデオカメラに指を休めず満喫する。

シンガポールは日本の淡路島ほどしかない国だが、一九四二年日本軍がこのシンガポールに侵攻した際に行われた、約三万人ともいわれる「シンガポール虐殺」のあったところ。その記念碑もあり、深い緑につつまれて、ひっそりとあり、シンガポールの歴史を静かに見守っているようだった。

日本軍の司令部であったといわれる建物も、荒れはてた姿で残っているのが印象的でもあった。

頭はライオン、体は魚という高さ八メートルの奇妙な像にさよならをつけて帰国したのは十二月三十日JAL七二二便で東京に着く。

冬空に歓声運び海を越す

## 私と似顔絵

五期生 小林 平八

私の生き甲斐は、風景との対話を楽しみながら、水彩を描くことにあった。然して、三年程前から家内の病気や、遅い初孫が生れたり、それが許されなくなってしまった。そこで何と

か新しい道をと思案の結果、似顔絵を描くことを思いついた。これだと家にあっても充分取り組むことが出来るし、面白いのではないかと思ひ、趣味の方向転換をすることにしたのである。早速日本創芸教育似顔絵講座に入会し、その指導を受けたところ、幸い特待生に選ばれることが出来た。以来未熟乍ら、お世話になった人や、親しい友人、又頼まれた人等、沢山人達のお顔を描かせて頂いた。似顔絵は簡単なようで、仲々難しい。殊にその人のお人柄までとなると愈々難かしく、奥の深さを痛感させられる。目を描くだけで四日もかかったことさえある。然し、出来た時の満足感、又進呈した人から「大変良く似ていると家内中大笑いした」など喜びのお手紙を頂いた時は、私の喜びも又格別である。どうか今後も、この似顔絵を通じて、沢山人達に喜んで頂きたいものと思っている。

# 事業報告

## ● 老大開校十周年記念植樹

期 日 平成元年五月二十三日(火)  
植樹場所 米原文化産業交流会館中庭  
「クロガネモチ」一本

## ● 総会

期 日 平成元年六月八日(木)  
場 所 高島郡萩の浜 翠湖園  
総会次第 国歌斉唱、黙禱、同窓会憲章朗読、役員発表、  
会長挨拶、来賓祝辞

## 議事

- (1) 会務報告、決算報告、監査報告
- (2) 平成元年度、予算案
- (3) 老大十周年記念に関する件
- (4) その他

記念講演 郷土史家 藤井五郎氏

## 懇親会

## ● 研修会

期 日 平成元年七月一日(土)～二日(日)  
場 所 比叡山延暦寺  
日 程 一時三十分～高齢者の役割について―堀野徳雄  
二時～三時―講演、生田孝憲大僧正

四時～写経

五時～入浴、夕食懇親会

(第二日)

五時～起床、座禅

七時十分～朝食、自由行動

十時～開散

## ● 広報部役員会

期 日 八月三日  
場 所 厚生会館  
内 容 会報、新聞、名簿について  
老大十周年記念誌について

## ● 役員総会

期 日 八月二十八日(月) 十時～  
場 所 厚生会館 二階  
内 容 会誌発行に伴なう諸問題について、役員改選、  
会費徴集、研修会の反省等について

## ● ソウル老人大学と交歓会

期 日 平成元年十月十二日(木)  
場 所 大津市立膳所市民会館  
滋賀老大大校長歓迎の言葉  
滋賀老大大校長挨拶  
ソウル老大大校長挨拶

参加者 滋賀老生約百名、ソウル老生約六十名

交流会 滋賀老生現況説明

ソウル老生現況説明

質疑応答、意見発表

日本茶・菓子接待

滋賀老生及び同窓会員による、歌、奇術、民謡等の出演

ソウル老生による民族舞踊、民謡披露

ソウル老生による民族舞踊、民謡披露

プレゼントの交換

閉会挨拶

● 公開講座

期 日 十一月二十五日(土)

場 所 草津市民会館大ホール

講 師 稲葉 稔校長

「講話」

講 師 矢野 暢 京大教授

「世界の中の日本」

期 日 三月三日(土)

場 所 滋賀会館大ホール

講 師 梅原 猛 国際日本文化研究センター所長

「親鸞の思想」

講 師 小田 稔 理化学研究所理事長

● 総務部会

「宇宙のロマンと人類の未来」

期 日 三月一日

場 所 厚生会館 一階

内 容 総務の事業に関する事項

総会の期日と場所

研修に関する事項

会則第八条に関する事項

役員総会の件

その他

## 滋賀県老人大学校十周年

### 記念式典と記念植樹

去る三月十一日、大津市民会館において、開校十周年式典が大津、米原両校の在校生をはじめ、同窓生や関係者ら約六百人が集り盛大に催され、元同窓会長、大橋儀平氏（老大一期生）と現同窓会長、中川長三氏（老大二期生）の両氏より開校当初の懐かしい思い出を披露されると共に、在校生に対し、生きがいをもって有意義に日々を過すよう激励の言葉があった。

この老人大学校十周年記念事業の一環とし、同窓会として老人大学米原校の在る文化産業交流会館庭園の南側、噴水のほとり景勝の地に「クロガネモチ」を植樹することができました。

この記念植樹は、平成元年五月二十三日、さつき日和で好天に恵まれ、老人大学同窓会長・中川長三氏、同副会長・中村標雄氏、文化産業交流会館長・川口実氏、同副館長・川瀬清市氏、元事務局職員・片岡徳夫先生、両校事務局職員列席のもとに行われました。

この植樹された「クロガネモチ」はモチノ木科の常緑樹、雌雄異株で五月頃花柄状の淡紫色の小花が散状に咲き、晩秋には赤い実をつけ、小鳥がついばみます。又「もち」「もっこく」「もくせい」は日本庭園には主木として又金持ちの音便よりお芽出度い木として喜ばれます。

又記念碑は花崗岩の角石に「老人大学十周年記念」の揮毫を中川同窓会長にお願いしました。



## 平成元年度第三回研修会報告

研修部長 中嶋 庄右衛門

去る七月一日、二日と老須聳え立つ比叡山延暦寺に於て老友三〇名研修会に参加先づ第一日目十一時延暦寺会館に集合昼食を終えて一時講堂に集合。開講式、日程説明に続き事務局の堀野先生より挨拶と共に現在社会の地域、家庭における老人の果す役目に付て短時間であったが有益なお話を拝聴受講者一同感銘す。

二時より山科比沙門堂跡寺生田孝憲大僧正を講師にお迎し「生きがい」と題されまして一時間三十分正々流々たる語調での御講演老人は若人の指導責任者であると強調される、『又して見せて言うて聞せてやらして見て賞めてやる』と確かにその通りであるが日常生活の中で言い易く行い難しと言えどもつとめて実行したいものである。

自分は日常楽しみながら苦しむ苦しみながら楽しみ自分には厳しく他人には優しくする事が人生行路の一番大切であると縷々講義される。

心の糧を求めて延暦寺の回行僧は比叡山を四時間半から五時間間に約三十軒を早足に歩いて廻り修業を積まれる由を拝聴如何に厳しい修業である事を感じいた次第です。

御講演中は余りにも熱弁にて固唾をのんで咳一つなく終始静

粛そのものであった。

講演終りて約十分休憩、後写経の意義と書き方に付いて詳細に説明を賜りましたが一字一字に心を込めて実施約一時間で全員書く事が出来まして気分も爽快になりました。

五時三十分より入浴六時三十分より夕食懇親会にて精進料理で一パイ是れも又乙なものの結構美味しく戴きました。

明朝は五時起床にて根本中堂にて座禅とあって就寝も早く各部屋とも静かに休まりました。明けて第二日目さすがは梅雨期とあって比叡の奥山は雨と霧で十米先が見えないもやの中円い座布団を一枚宛会館より携行根本中堂へと会館前にて注意を受けて行く時間約五分その歩行中も行の一環であると教えられ静かに無言で行進到着後は僧侶の指導の基に柔軟体操を約十分余り、虫の音一つなく深山の根本中堂愈々座禅に入る。薄暗き本堂内は呼吸の音一つなく行者は自分が定めた一点を直視し本當に神聖そのものである。

微動だもなく四、五十分も経過したかと思ったその時大きな声がして終了との事でしたが二十分間であった由随分と長い様に思われました。

その後、朝のお勤め「読経」に参拝根本中堂内を詳細に説明がありまして会館へ帰り朝食七時三十分随分と雨が降りしきり自由行動もまゝならず朝食終った時点で時間日程を繰上げて閉講式解散と致しました。

参加者各位の格別の御協力を得まして無事効果的に研修会が  
終了特に老大事務局の格別の御援助に心より感謝の意を表する  
次第であります。

合 掌

老杉の木の間もる陽の比叡の奥

野生の猿は餌をあさりおり

比叡山梅雨にけむる延暦寺

老友集いて写経に心澄む

朝まだき五時に起き出で根本中堂

座禅をくめば無念無想に



(生田孝憲大僧正の講演)

# 事業予告

## ● 財レイカディア振興財団設立

期 日 平成二年三月下旬  
事務所の位置

厚生会館内に設置される

老大との関係

いままで、老人クラブ連合会が受託していた、老人大学の運営が、本年四月より財レイカディア振興財団の受託運営となる。

法人の目的

高齢者の社会活動について啓発・普及、高齢者の生きがいづくり、健康づくりの推進、指導者の育成などの事業を行い、社会の各分野において高齢者の社会活動が活発に展開され、誰もが生き生きと豊かに暮らせる明るい長寿社会「レイカディア 湖の理想郷」の実現に寄与する。

## ● 役員総会

期 日 四月二十六日(木)

場 所 厚生会館 三階C室

内 容 経過報告、会計決算、予算案、新年度行事計画、

本年度総会計画、十周年記念行事委員、新役員

## ● 研修会

の紹介と承認等について。

期 日 六月四日(月)

場 所 奈良少年刑務所(般若寺町18)他に奈良の社寺見学

目 的

最近の豊かな物質生活の中にあつて、次代を担う、青少年の行動は、憂慮すべきものがあります。このような状況の中で、私達高齢者は、その豊かな人生経験と、日本の良き伝統文化を生かすことによって、対個人的に、あるいは家庭、地域における、社会教育等において、青少年の真正な、発達と成長に貢献しなければなりません。

そこで少年刑務所を見学することにより、現在青少年の実態を知り、また、不幸にして、非行におちいった若者が、教育によって、いかに立ち直るかを研修する。

日 程 十時-JR大津駅前

十二時-奈良着、昼食

十三時-刑務所研修

十四時三十分-奈良市内社寺見学

十七時三十分-大津着



費用 五千円（昼食代を含む）  
申込み各支部長へ現金を添えて。

● 滋賀県老大同窓会 総会

期日 六月九日（土）  
場所 能登川町 やわらぎホール

● 老人大学公開講座予定

期日 六月十六日（土） 午後一時より  
場所 米原文産会館 大ホール

講師 奈良本辰也「近江の歴史」

● 老人大学公開講座予定

期日 九月一日（土） 午後一時より  
場所 大津市民会館

講師 未定

● 広報部会

期日 八月

● 役員総会

期日 八月

● 総務部会

期日 平成三年三月

● 十周年記念事業委員会

期日 本年度中に三回程度開催

● 第九号会誌発行

期日 三月末日

会費	1000	1000	1000
雑費	1000	1000	1000
印刷費	1000	1000	1000
送料	1000	1000	1000
その他	1000	1000	1000
合計	5000	5000	5000

# 平成元年度 会計収支決算報告

(平成 2. 3 末現在)

## 〈収入之部〉

区 分	予 算 額	決 算 額	差引増減額	摘 要
会 費	595,000	636,000	41,000	
繰 越 金	573,655	573,655	0	
利 息	1,500	2,274	774	
雑 収 入	24,000	35,700	11,700	
合 計	1,194,155	1,247,629	53,474	

## 〈支出之部〉

区 分	予 算 額	決 算 額	差引増減額	摘 要
報 償 費	60,000	60,000	0	本部事務職員期末謝礼
旅 費	80,000	80,000	0	
会 議 費	50,000	37,540	12,460	
食 糧 費	40,000	37,540	2,460	
賃 借 料	10,000	-	10,000	
総会研修活動費	650,000	495,490	154,510	
助 成 費	100,000	23,490	76,510	
印刷製本費	500,000	460,000	40,000	会報印刷
賃 借 料	50,000	12,000	38,000	
慶 弔 費	65,000	34,655	30,345	支部総会祝金
役 務 費	15,000	20,910	△ 5,910	
通信運搬費	15,000	20,910	△ 5,910	
需 用 費	30,000	6,654	23,346	
印 刷 費	20,000	-	20,000	
消耗品費	10,000	6,654	3,346	用紙代
退 職 積 立 金	10,000	10,000	0	
10周年記念積立	200,000	0	200,000	
予 備 費	34,155	2,600	31,555	
合 計	1,194,155	747,849	446,306	
差 引 残 高	1,247,629-747,849=499,780		次年度繰越	¥ 499,780 -

## 平成2年度会計予算(案)

### 〈収入之部〉

区 分	本年度予算額	前年度予算額	差引増減額	摘 要
会 費	685,000	595,000	90,000	1,000×595(人)
繰 越 金	499,780	573,655	△ 73,875	
利 息	3,500	1,500	2,000	
雑 収 入	24,000	24,000	0	同窓会バッチ代
合 計	1,212,280	1,194,155	18,125	

### 〈支出之部〉

区 分	本年度予算額	前年度予算額	差引増減額	摘 要
報 償 費	60,000	60,000	90,000	本部職員手当(2名)
旅 費	80,000	80,000	0	役員会、部会
会 議 費	50,000	50,000	0	役員会、部会
食 料 費	40,000	40,000	0	
賃 借 料	10,000	10,000	0	
総会研修活動費	660,000	650,000	10,000	総会、研修会、部会
助 成 費	110,000	100,000	10,000	
印刷製本費	500,000	500,000	0	新聞、会報(8号)
賃 借 料	50,000	50,000	0	
慶 弔 費	80,000	65,000	15,000	支部総会祝金、弔電
役 務 費	25,000	15,000	10,000	切手、はがき、送料
通信運搬費	25,000	15,000	10,000	
需 用 費	30,000	30,000	0	コピー、印刷用紙等
印 刷 費	20,000	20,000	0	
消 耗 品 費	10,000	10,000	0	
退 職 積 立 金	10,000	10,000	0	
10周年記念積立	200,000	200,000	0	同窓会総会十周年記念
予 備 費	17,280	34,155	△ 16,875	
合 計	1,212,280	1,194,155	18,125	
*会費(終止)	42名	43,1662		

(付記)

この会誌が、お手元に届くころは、さわやかな初夏の季節となり、すがすがしい初夏の風が、緑深くなった樹々のあいだをわたっていることでしょう。

会員の皆様お元気で、生きがいのある日々をお過しでしょうか。

「高齢者社会の到来」という声高な言葉がまい日のように聞こえてきますが、高令者が、なにか特別やっかいな人間であるかのようにはしたくないものです。

人生を半世紀以上生きてきた人間は、自己が宿っている父母から受けついだ心身の健康を保ちながら、いままさに、蓄積した尊い経験と叡知を、また伝統文化の価値を後に続く者達に自信をもって示していきたいものです。本名簿で誤記などがありましたら事務局へお知らせ下さるようお願いいたします。

会員の皆様の御健勝と御多幸を心よりお祈りいたします。

平成二年三月

滋賀老大事務局 堀野徳雄

滋賀県老人大学対同志会公開

## 滋賀県老人大学校同窓会会則

### 第一条 (名称)

本会は、滋賀県老人大学校同窓会と称する。

### 第二条 (会員)

本会は、滋賀県老人大学校卒業生をもって組織する。

### 第三条 (事務所)

本会の事務所は、滋賀県老人大学校本部内におく。

### 第四条 (目的)

本会は、会員の親睦および老老の発展に寄与することを目的とする。

### 第五条 (支部)

本会に支部を設け、前条の目的達成をはかる。

### 第六条 (事業)

本会は、前条の目的を達成するために、左の事業を行なう。

1. 総会
2. 研修会
3. 老老後援活動
4. 会報と新聞の発行
5. その他の事業

### 第七条 (事業部)

本会に事業部をおき、支部長、理事をもって構成し各部員は会長が委嘱し、部長は部員の互選による。

1. 研修部
2. 総務部
3. 広報部

### 第八条 (役員および役員の選出、任期)

本会に次の役員を置く。

1. 会長一名
2. 副会長一名
3. 理事、各支部二名(支部長および支部選出者一名)
4. 幹事二名(会員事務局から一名)
5. 監事二名。

役員の選出方法

会長及び副会長は、役員会によって選出する。

理事は、各支部から選出する。

監事は、各支部が交替で二名選出する。

役員の任務

会長 本会を代表する。

副会長 会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代行する。

理事 本会の運営に当たる。

幹事 本会の事務を処理する。

監事 会務、会計を監査する。

役員の任期

役員の任期は二年とする。但し再任は妨げない。

### 第九条 (会議)

総会は、会長が招集し、議長は会員の中から選出する。

総会の議事は、出席者の半数以上の同意をもって決する。

### 第十条 (顧問)

本会に顧問を置くことができる。

第十一条（経費および会計年度）

本会の経費は、会費をもってこれに当てる。

滋賀県老人大学校同窓会憲章

会費は、終身額一〇、〇〇〇円とする。（A会員）  
但し、年額一、〇〇〇円ずつの納入を認めるものとする。

1. 互いに助け合い、高齢者社会を生きる資質と実践力を高め  
あう。

会計年度

2. 心身の健康を保って、社会活動に積極的に参加し、老人ク  
ラブ活動の支柱となって働こう。

本会の会計年度は、毎年度四月一日から始まって、翌年の  
三月三十一日をもって終わる。

付則

3. 古き良きものを伝承し、新しきを生み出して、郷土社会の  
健全な発展に尽くそう。

本会則は、昭和五十五年十月一日から施行する。

4. 会員の研修及び老大的発展に寄与する活動を積極的、持続  
的に推進しよう。

(改正) 昭和五十七年十月一日から施行する。

(改正) 昭和六十年四月一日から施行する。

(改正) 昭和六十一年四月一日から施行する。

(改正) 昭和六十二年五月二十三日から施行する。

(改正) 昭和六十三年六月二十二日から施行する。

(改正) 平成元年八月二十五日から施行する。

5. 社会の発展に即応する高齢者像の具現のために励みあい、  
提携し合う輪を内外に広めよう。

昭和五十七年三月八日

## 編集後記

○ 年号は「平成」と改められ、国民が年号から受ける平和と成長発展のイメージの通り、世界は平和と発展に向いつつあることは誠に喜ばしい。しかしながら、其の途上の苦しみも極めて大きい。東ヨーロッパ諸国の改革がそれである。又モンゴルやネパールの混乱も、改革を要求する国民の声なのである。独り日本は、第二次海部内閣が誕生し、消費税見直しが国民の期待となり、政局は一段落の安定をみた。但し対米経済摩擦は日本政府に取っては重大な難関と雖も東ヨーロッパの比ではない。有り難い国に生を受け、力一杯考え、力一杯行動出来る事の喜びを味合うものである。

○ 昨年は滋賀県老人大学校創立十周年を迎え、昨年三月には記念式が盛大に挙行され滋賀県老人大学校同窓会も其の行事の一端を担い、滋賀県老人大学校同窓会員に寄付を仰ぎ、記念品の配布と記念植樹を実施した。滋賀県老人大学校同窓会は創設されて以来来年で十年を迎える。又滋賀県老人大学校にあっては、県民の要望に応え、生涯学習の機会均等の上から、米原校舎での学習が始められて、三ヶ年、今年秋には一回目の卒業生を送り出し、滋賀県老人大学校同窓会は飛躍的に増大発展する運びとなっている。

○ 昨年は大物政治家達の汚職が発覚し、庶民の生活苦から政治不信が広がり、民意は政治離れかと懸念されたが、滋賀県老人大学校同窓会員は己の正道を歩み、後世に「生き方」の手本を残した。

○ 会報八号は役員会で、「合本が利用しやすい」との意見を汲み、従来の会報にプラスして名簿を掲載することになりました。各支部長や広報部員の御協力により、又会員各位の御投稿を得て、ここに会報八号を出版することが出来ましたことを喜び、厚くお礼を申しあげますと共に、滋賀県老人大学校の学生であった当時を思い起こし、友情を温め直し、交流や文通に、御利用戴ければ幸甚です。又私事でありますが、今年正月明けに流行性感冒にかかり、心筋梗塞を併発し病伏約二ヶ月に渡り会報の編集に多大の御迷惑をお掛けした事を申し訳なく深くお詫び申しあげます。

(広報部長 林 秀 一)

役職名	氏名	住所	〒	番	備考	
会長	中川長三	東浅井郡びわ町曾根1304	520-01	0749-72-2382		
副会長	中村標雄	大津市馬場一丁目3-32	520	0775-23-1906		
支 部 長	高	駒井徳左衛門	高島郡安曇川町北船木	520-13	0740-34-0218	総務
	島	熊谷正三	高島郡安曇川町田中2618	520-12	0740-32-0706	研修
	大	高野惣平	大津市大江2-29-17	520-21	0775-45-1772	広報
		津	下司 清	大津市際川2-4-29	520	0775-25-0713
	湖	林 秀一	草津市西渡川一丁目16-64	525	0775-62-5148	広報 部長
		南	大西憲司	守山市金森町683-4	524	0775-83-1425
	甲	島田寅次郎	甲賀郡水口町元町8-20	528	0748-62-2435	研修
		賀	千代倉太郎	甲賀郡甲西町中央2丁目	520-32	0747-72-2964
	湖	大道喜一郎	蒲生郡日野町柚683	52916	0748-52-5399	広報
		東	畑中保次郎	蒲生郡竜王町山の上3278	520-25	0748-57-0116
	近	吉川保三郎	近江八幡市北末町2	523-	0748-33-2691	総務
	八	中嶋庄右衛門	近江八幡市赤尾町384	523	0748-33-1261	研修 部長
	彦 根 愛 犬	野中 正	彦根市平田町67-6	522	0749-23-3387	研修
		辻 幸夫	彦根市甘呂町868	522	0749-28-1445	広報
	湖 北	宮崎 程彦	彦根市京町三丁目8-21	522	0749-23-8046	総務
		松下 保清	坂田郡米原町三吉36	521	0749-54-2395	研修
監事	岡田富次郎	近江八幡市船木町1215-	523	0748-33-3597		
	中谷清司	近江八幡市北之庄町1120	523	0748-32-2182		
幹事	中村標雄	上記に同じ				
	堀野徳雄	大津市膳所池の内町1047-5	520	0775-21-6944		



役職名	氏名	住 所	〒	電 番	備考
会 長	中川長三	東浅井郡	520-01	0749-72-2382	
副会長	中村標雄	大津市馬	520	0775-23-1906	
支 部 長	高 駒井徳左衛門	高島郡安	520-13	0740-34-0218	総務
	島 熊谷正三	高島郡安	520-12	0740-32-0706	研修
	大 高野惣平	大津市大	520-21	0775-45-1772	広報
	津 下司 清	大津市際	520	0775-25-0713	研修
	湖 林 秀一	草津市西	525	0775-62-5148	広報 部長
	南 大西憲司	守山市金	524	0775-83-1425	総務
	甲 島田寅次郎	甲賀郡水	528	0748-62-2435	研修
	賀 千代倉太郎	甲賀郡甲	520-32	0747-72-2964	広報
	湖 大道喜一郎	蒲生郡日	52916	0748-52-5399	広報
	東 畑中保次郎	蒲生郡竜	520-25	0748-57-0116	総務 部長
	近 吉川保三郎	近江八幡	523-	0748-33-2691	総務
	八 中嶋庄右衛門	近江八幡	523	0748-33-1261	研修 部長
	彦 野中 正	彦根市平	522	0749-23-3387	研修
	根 辻 幸夫	彦根市甘	522	0749-28-1445	広報
犬					
湖 宮崎 程彦	彦根市京	522	0749-23-8046	総務	
北 松下 保清	坂田郡米	521	0749-54-2395	研修	
監事	岡田富次郎	近江八幡	523	0748-33-3597	
	中谷清司	近江八幡	523	0748-32-2182	
幹事	中村標雄	上記に同			
	堀野徳雄	大津市膳	520	0775-21-6944	